

当事者意識をもって課題について考察し、 解決に向けて自ら構想していく力を養う社会科学習の在り方 —第5学年の工業学習における西村勝三の靴造りを通して—

1. 設定理由

2015年に出された中教審の「教育課程企画特別部会 論点整理」では、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現することが求められている。本実践では社会的事象同士の関連について理解を深めることで、把握した課題の解決に向けて考察し、どのように関わっていけるかを構想するという力を養うことを目指した。これからの中の姿を考察する学習において地元佐倉の人物の功績を教材化し、自らと社会との関連を捉えれば、課題を考察し解決に向けて自ら構想する力が育成できると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

【仮説1】

地域教材を学習や道徳で活用したり、過去と現在の工業を比較したりすれば、学習内容が身近になり現代社会の課題を自らと関連付けて考察できるだろう。

【仮説2】

学習協力者を活用したりまとめ方を工夫したりすることで、これからの中の我が国について自らと結び付けて構想できるだろう。

3. 研究内容

これからの中の姿を考察する学習において地元佐倉の人物の功績を教材化し、自らと社会との関連を捉えれば、課題を考察し解決に向けて自ら構想する力が育成できることを実証する。

①児童が社会に見られる課題を把握する力を育む指導法／授業実践と児童の変容の分析

②児童が課題解決に向けて自ら構想できる力を育む指導法／授業実践と児童の変容の分析

③第5学年の学習における地域素材の教材化／地域の企業や人材を調査、教材研究

4. 結論

○地域教材や他教科と関連させる活動、過去と現在の工業の共通点や相違点をもとに考えることを通して、課題が明確になり、自らを取り巻く社会が抱える課題について考察できるようになった。

○学習協力者を活用したり、これからの工業の姿を構想する未来予想図を用いてまとめたりすることで、これからの中の我が国についてより自らと結び付けて構想できるようになり、自らと社会との関わり方について考えることができた。

3-1

印旛支部
佐倉市立上志津小学校
富松 真二郎
四街道市立四街道小学校
大石 良男

1 研究主題

当事者意識をもって課題について考察し、解決に向けて自ら構想していく力を養う
社会科学習の在り方～第5学年の工業学習における西村勝三の靴造りを通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会に、どのように向き合い、どのような資質・能力を育成していくべきか。2015年に出された中教審の「教育課程企画特別部会 論点整理」では、「複雑で変化の激しい社会の中では、固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけではなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力が必要となる」ことが挙げられている。社会科の学習においても、「社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる」資質・能力を育成することが述べられている。知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を実現することが求められている。これらのことを受け、本主題を設定した。

(2) 新学習指導要領から

学習目標(2)「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に捉える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」と内容(3)ア(イ)「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることが分かるようにする」を受け、本主題を設定した。

(3) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題をみいだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

自ら課題をみいだす為には、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりする活動を通して社会に見られる課題を把握する必要がある。その解決に向けて、解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることが自らの考えを表現できることにつながると考えた。これにより、主題にある「よりよい社会の実現に寄与する『生きる力』」が培われていくと考え、本主題を決定した。

(4) 先行研究から

社会に見られる課題について考察し、その解決に向けて構想したりそれを表現したりする実践はこれまでに何度も行われてきた。

- ・平成28年度 宮川教諭実践【他の地域教材での、自らとの関連に対する変容の考察】
- ・平成29年度 久保教諭実践【東京オリンピック・パラリンピックに向けた課題を把握し、自分たちにできることを考える学習】

上記の実践において課題として「社会との関わりにおいて、自分が関わる活動を考えられる」段階まで進まなかった児童がいたことが挙げられている。その理由は社会的事象同士の関連の把握が不十分だと、自らと社会との関連を捉えられないことである。そのため、本実践では社会的事象同士の関連について理解を深めることで、把握した課題の解決に向けて考察し、どの

ように関わっていけるかを構想するという段階まで進むことを目指し、その中で児童がどこまで変容するかについて検証するために本主題を設定した。

(5) 児童の実態から (5年2組 35名)

本学級の児童は社会科学習に対する関心意欲が高く、既習事項の学習にも高い関心意欲をもち取り組んできた(資料編1-1~3より)。一方で自身と社会とのつながりには高い関心意欲をもっておらず、当事者意識も薄い。自身と工業のつながりや、これからの工業についてはさらにその傾向が強い。工業やそれに関わる人々の工夫や努力は理解しても、当事者意識や、自分達の将来にどう関わるのかという視点がない。社会が抱える何かしらの問題を考察するという点において課題があると言える。そのため、当然構想することも難しく「社会と自らとの関連」という視点がないため他者的に社会的事象同士の関連を捉えることに終始している。一方、自分が住む佐倉に対してはそのすばらしさを理解し、好きだと感じている児童が多くいる。児童は1年生から「佐倉学」という地元佐倉についての学習を積み重ねており、佐倉への愛着の要因だと考えられる。しかし佐倉の先人が自分達の暮らしを支える工業に多大な貢献をしたことについて児童は全くと言っていいほど知らなかった。あくまで「ふるさと佐倉のために頑張った人達がいた」という意識にとどまっており、よりよい社会の実現のために尽くしてきた先人の姿はそこから見えてきていない。また、「明治日本の工業の父」とも称される西村勝三の功績についてはどの児童も知らなかった。このため本実践では、西村勝三やREGALの取り組みを用いて、身近な課題に気づき学びに向かう力を高めていきたい。さらに佐倉の地域教材を取り入れることで、自らと社会とのつながりや、昔と現在との共通の課題が明確になり、これからのが我が国との関わり方を考えていけるようになると考え、本主題を設定した。

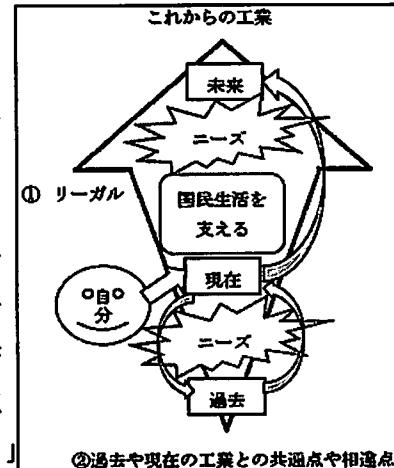
3 主題について

(1) 課題を考察するとは

課題を考察するとは社会的な見方・考え方をもとに「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察すること」であると捉えた。社会的事象の特色や関連、意味を多角的に考察することができれば、社会が抱える課題について正確に把握することができるだろう。そこで本実践では次のことが出来れば課題を考察できたと捉えた。1点目は「工業生産に関わる人々が、消費者の需要や社会の変化にどのように対応したのか理解すること」。2点目は「明治時代も現代社会も共通する課題があることを理解すること」である。児童は自らと社会の関わりを実感できず、これからの我が国の工業について構想することが難しい。そこで、地域の先人である西村勝三など工業生産に関わる人々が消費者の需要や社会の変化にどのように対応したのかを知ることで、時代によって社会が求めるニーズは変化しているが、ニーズに応えるという姿は変わらないことを社会科の見方・考え方の一つである時間を追って理解すれば、課題について考察することができるようになるであろう。

(2) 解決に向けて自ら構想していくとは

解決に向けて自ら構想するとは、「社会に見られる課題を自分事として捉え、関わり方を選択・判断すること」と捉えた。社会に見られる課題へ自分なりに関わり方を選択・判断することができれば、社会が抱える課題の解決に向けて構想できるだろう。本実践では、解決に向け



て自ら構想していく児童の姿を以下の2点とした。1点目は「これから工業に求められている課題が何であるのかを把握し、解決策を考えること」。2点目は「工業が抱える課題に対して、自らの課題と捉えて関わり方を考えること」である。

4 教材について

(1) 佐倉の先人 西村勝三

西村勝三は明治期の実業家として新しい産業を次々と興した人物である。特に西洋靴製造では日本靴の父と呼ばれるほどの人物であり、佐倉市民体育館前に日本製靴組合が建てた銅像もある。西村勝三は西洋に負けない製品を造り続け、興した企業は現在にまでしっかりと受け継がれている。その企業が百年以上にわたって社会に貢献できるということは、創業当時の経営者の理念が明確であり、その製品が社会にとって必要なニーズに応えたものであったということである。また当時の社会が求めるニーズに対応した製品を造り続けてきたことを知れば、それが今の工業にも受け継がれた理念だということに気づくだろう。私たちの生活に欠かすことのできない日本の工業の基礎を築いた地元佐倉出身の西村勝三の功績を紹介することで、児童の工業への興味関心が高まり、児童はより自分と工業の関連を捉えやすくなるだろうと考える。

(2) REGAL

REGALは1902(明治35)年の創業以来、一貫して靴の企画・製造・販売に従事する製靴会社である。上記の西村勝三が創業に関わっており、これから工業と自分自身の関連を考えさせる際に児童が興味をもち、自分達とのつながりを見つけやすいと考えた。百年以上の歴史を持つREGALは、日本の工業の始まりとほぼ同時に誕生し、日本の工業が取り組んできた工夫や努力がその社史と共に表れているといえる。これから社会が求めるニーズや要望、グローバル化にも対応できるよう多くの取り組みを行っており「工業生産に関わる人々は消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた商品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する」指導要領の内容に関わる活動を行っている。現在の取り組みを知るだけでなく、過去における工夫や努力、そしてこれからの取り組みについて知ることで、児童は日本の工業が行ってきた取り組みが、いつの時代も社会のニーズに応えてきたものであることに気づき、これからの工業の姿について地に足がついた考察をすることができると考えた。

5 研究の目標

これから工業の姿を考察する学習において地元佐倉の人物の功績を教材化し、自らと社会との関連を捉えれば、課題を考察し解決に向けて自ら構想する力が育成できることを実証する。

6 研究の内容と方法

【研究内容／研究方法】

- ア 児童が社会に見られる課題を把握する力を育む指導法／授業実践と児童の変容の分析
- イ 児童が課題解決に向けて自ら構想できる力を育む指導法／授業実践と児童の変容の分析
- ウ 第5学年の学習における地域素材の教材化／地域の企業や人材を調査、教材研究

7 研究仮説と手立て

【仮説1】

地域教材を学習や道徳で活用したり、過去と現在の工業を比較したりすれば、学習内容が身近になり現代社会の課題を自らと関連付けて考察できるだろう。

手立て① 地元佐倉に関わりのある教材を取り入れたり、他教科と関連づけたりする

本実践で扱う佐倉出身人物の西村勝三は、先述した REGAL と密接に関わっている。導入で REGAL の靴造りの様子や 30 年以上経っても履き続けることができる REGAL の靴を見たり、百年以上前から日本の靴造りを支えてきたことを知ったりすることで、児童に「いつから」「だれが」ここまでこだわりをもって取り組んできたのかということに疑問をもたせる。その後 REGAL の創業に関わった佐倉出身の西村勝三の功績を紹介することで、児童は学習内容をより身近に感じるであろう。西村勝三を道徳で扱うことで内容項目「公共の精神」「国や郷土を愛する態度」を育てるだけでなく、西村勝三が私欲ではなく世のため人のために靴造りに取り組んだことが、現在の REGAL 社是である「お客様第一・社会から高い信頼を得る」という考え方につながっていることに気づくと考える。社会科と道徳での学習を通して、社会に見られる課題の解決に向けて努力を惜しまなかつた先人の姿をより深く知れば、現在の社会に見られる課題を先人のように自分達で解決しようとすることにもつながるであろう。

手立て② 過去と現代の工業について調べ、時間を超えて共通する課題への理解を深める

児童がこれから我が国の工業について構想できるようにするために、過去と現在の工業の共通点や相違点について調べる活動を取り入れる。導入の段階で、現在の REGAL の工夫やこだわり、努力について映像を見たり資料を読み、多くの工夫やこだわりがあることについて学び、これらが創業以来一貫して取り組まってきたものであることを知る。次にその創業に関わった西村勝三について取り上げ、西村勝三が設立した REGAL の前身である櫻組の功績について知る。明治時代の靴造りにおいて、当時の社会が求めた「質のよい靴を、大量に、素早く供給する」ことに対応できるように人材の育成や新技術の導入などに取り組んだことを取り上げる。当時の社会のニーズに対応することで日本の工業が発達してきたことを理解できるだろう。過去も現在も社会のニーズに応えることができるように多くのことに取り組んでいる事実を実感できるようになる。それらを通して、これからも工業が発達するには社会からのニーズが必要であること、だから自分達が考えていくことが必要であると気づくであろう。

【仮説2】 学習協力者を活用したりまとめ方を工夫したりすることで、これからの我が国の工業について自らと結び付けて構想できるだろう。

手立て① 質問やメールでのやり取りを通し、工業に関わる人々とのつながりを作る

課題を把握し自らのこととして考える際に、児童は資料やホームページ等を活用して調べ学習を進めていくが、おそらく現在 REGAL が取り組む工夫やこだわり、努力についてはごく一部しか知ることができないだろう。さらに、今後 REGAL が取り組もうと考えている課題や社会からのニーズを知ることは難しい。そこで、REGAL アーカイブス館長をされている F さんと連絡をとり「今 REGAL に求められているものは何か」「これからどのようにそれらに対応していくのか」「今消費者や社会からはどのようなことが求められているのか」といった疑問に答えてもらう。さらに現在の工業の最前線で働く方々を身近に感じ、現代の工業が抱える多くの課題について知れば、これからの工業に対する問題意識をもたせることができるようになるとえた。質疑応答の中で児童に返してもらうことで、これからの工業の姿を考察する際に、地に足のついた解決方法を構想していくことができるようになる。実際に工業に関わっている人たちに向けて質問し意見を聞くという活動を行うことで、児童は自分が社会と関わっていかなければならないということを実感できると考える。

手立て② これからの工業について構想する際に、まとめ方を工夫する

これからの工業について構想する際に工業に直接関わりがない児童がその姿を構想し表現することは難しいであろう。まずこれからの工業について未来予想図を描くことで児童がこれからの工業の姿を構想することができるだろうと考えた。学習を進め、課題を把握する中でこれからの工業についての理解や課題の認識が深まった最後に、これからの工業の姿を構想していく。既習事項をもとにしてニーズから課題をクリアした姿を描かせるようにする。さらには自分自身や友達同士で評価し、しっかり課題が意識されているか考えさせながら取り組ませる。そのことが「自分達で何かしら工業に関わることができるかもしれない」「もしかしたら自分たちで社会を変えられるかもしれない。」という意識をもたすことにつなげられると考える。

8 学習のアウトライン(わたしたちの生活と工業生産)22時間(+道徳1時間)

【工業生産と工業地域】 3時間

太平洋ベルトなどの全国各地の工業地域や輸送網、海外との関係への理解を深める。

【くらしを支える製鉄業】 6時間

消費者や社会のニーズに合った先進的な技術を開発したり環境への配慮や復興支援をしてわたしたちのくらしや社会を支えていることへの理解を深める。

※加工貿易や輸出入のこと、環境への取り組みなどに見られる工夫や努力をここで抑えた

【工業生産を支える】 5時間

日本の工業生産は中小工場の高い技術やものづくりの伝統、運輸の働きで支えられていることへの理解を深める

【これからの工業生産とわたしたち】本実践 8時間 + 道徳1時間 ※下図

日本の工業生産を発達させていくには輸入と輸出のバランスをとる、持続可能な社会を目指すための取り組みを進めるなど様々な課題の解決が必要であることへの理解を深める。

学習のアウトライン(8時間+1時間)

昔や今と比べて、これからの工業はどのような姿になるだろう

実現は可能か?

絵に描いて予想

風で動く車

工業ががんばる

←抽象的な内容

エコなロボット

今の工業の課題と比べてみるとわかるかもしれない!

製靴業のREGALの靴を紹介する。 仮説1-①

REGALの靴は、何十年たっても使えるくらいじょうぶなつくりをしているんだ

資料：REGALの新品の靴 30年近く使っているREGALの靴 靴造り映像

こんなにこだわっているんだ。

何十年も使える靴を作るのはすごい。

でもなんでわざわざそんなに手間をかけるんだろう。

なぜREGALは手づくりやじょうぶなくつづくりやサービスにこだわりをもっているのだろう

資料：REGALのHP

最近のことではなく、以前からのこだわりだと気づかせる

資料：パンフレット

つかむ 予想と現在を比べ学習問題を立てる。

【つかり】(道徳)西村勝三
を
知り
工
業
に
興
味
をも
つ

【調べる】過去や現在の工業の共通点や相違点を調べる

【まとめる】調べた知識を活用し、工業の課題を把握する。

【いいかづく】これか
らの構想する

時間の流れがあるから
課題がはつきりする。

先人への尊敬・感謝
まとめるにつながる

経営理念でお客さま第一や品質重視を心がけている

- なぜここまでこだわっているのかな。
- いつからこんなにこだわりをもっているのかな。
- 誰からこのこだわりが続いてきたのだろう。

「西村勝三」という人の銅像が佐倉市民体育館の前にあるんだね。どんな人なのかな
何をした人かな。
資料: 西村勝三の銅像 石碑 仮説1-① 初めて聞いた人だ。

資料: 西村勝三の功績について 靴造りの写真 ガラスやレンガづくりの写真

みんなのため新しいものをつくろうとしたんだ。

何度も挑戦して靴やガラス、レンガづくりに取り組んだんだ。

自分も人の役に立つのや未来のためのものを作りたい。

資料: REGALの前身である櫻組や日本製靴株式会社 仮説1-②

当時の軍隊や外国から多くの注文を受けていたんだ

当時の世の中の人々が良い靴をたくさん早く作ってほしかった。だから人材を育てたり、技術を得たりしてそれに応えようとしたんだ

今と取り組むことは違うのかな?
西村勝三の想いが受け継がれている。

未来を感じさせるために過去を見せる

自分も人の役に立つ物や未来のための物を作りたい

資料: REGAL本社の記念館の館長F氏からのメール

質問への答え 仮説2-①

世の中のニーズに応えるためにこだわったり進化したりしているんだ。

お客様や世の中の人々のニーズに応える取り組みをしているんだ。

昔からのこだわりを次の世代に引き継いでいるんだ。
世の中のニーズに対応するため技術を磨いたり、お客様の要望に応えたりする靴造りを目指しているんだ。それがREGALのこだわりなんだ。

これからどう変わっていくのかな?

今の工業の課題: 働く人口や若い人減少 海外との協力が必要 持続可能な社会

思ったより解決するべき課題が多い

これは自分達のことかな?

今まで学習したことをもとに、今の工業が抱える課題と取り組みについて追及

仮説1-②

今と昔の共通点を

比較させる

環境についてこれからも取り組む
⇒自分達の社会のための取り組みになる

海外との関係や次の世代のための取り組みを行うなど、自分達のことだけを考えた発展でなく、これからも続く相手との関係を考えていくと思う

次の世代のための取り組み、次の世代のニーズに応える、⇒次の世代=自分達ががんばろう。という意識

自分のこととして考えていくことが大切!

海外とも協力したり、良い関係をつくったりしよう!

自分達ができる事をやっていこう!

KJ法やホワイトボードの活用で、教師の予想を飛び越えた!

課題を把握し解決に向けて自ら構想していく児童への変容

わかったことを絵でまとめる

仮説2-②

これからの工業は、今までのよう社会からのニーズに応えていく。次の世代につなぐための工夫やこだわりに取り組み、環境や世界とのつながりを考え、持続可能な社会に向けて問題を解決していく。そのためには自分達も工業について知ったり工業で働いたり、要望やニーズを出すなどできることをする。それは自分達子どももやるべきこと。

9 仮説の検証と授業の実際

【仮説1】

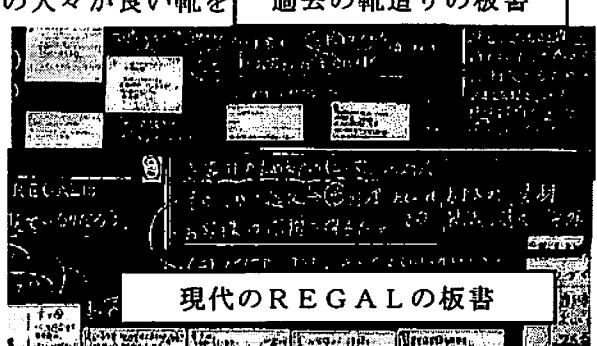
手立て① 地元佐倉に関わりのある教材を取り入れたり、他教科と関連づけたりして扱う。

第2時に地元佐倉と関わりのある REGAL を活用した。REGAL の存在を知らない児童に实物の REGAL の靴を見せたり、REGAL の製造過程の動画を見せたりして工業に対する興味関心を高めた。さらに REGAL の靴を 30 年近く使い続けている本校の職員に話をしてもらい、REGAL が佐倉と関わりのある会社であることを紹介して興味関心を高め「なぜここまでこだわりをもつんだろう」「いつからこのような取り組みをしているのだろう」といった工業への疑問をもつことができるようになった。また現在の REGAL が取り組む工夫や努力について学び、これらが最近ではなく昔からのこだわりであるということに気づいた(資料編2)。佐倉学と関わりのある西村勝三のことについては、道徳の時間に学習を行った。佐倉の先人西村勝三という題材で「世のため人のためになることをしよう」という心情である「成徳作用」について学んだ。今も人々に親しまれ使われているものの多くが西村勝三の功績と関わっている、現在も社会に多く貢献しているという児童の気づきが見られた。これらの学習を通して、児童は「他にも調べてみると靴以外にもレンガやガラス、ガスや洋服、メリヤスなど数多くの事業を興してきたことがわかった」「明治工業の父と呼ばれる人が佐倉から出たことを知り嬉しくなった」「西村勝三さんがいなければ日本は成り立っていなかった」「昔から工夫や努力に取り組む人がいた」など歴史認識を深めることで工業への興味関心を高めたり、今の工業につながっていることを理解したりすることができた。また課題を自分ごととして捉えることの大切さや難しさを感じることができた。(資料編2)

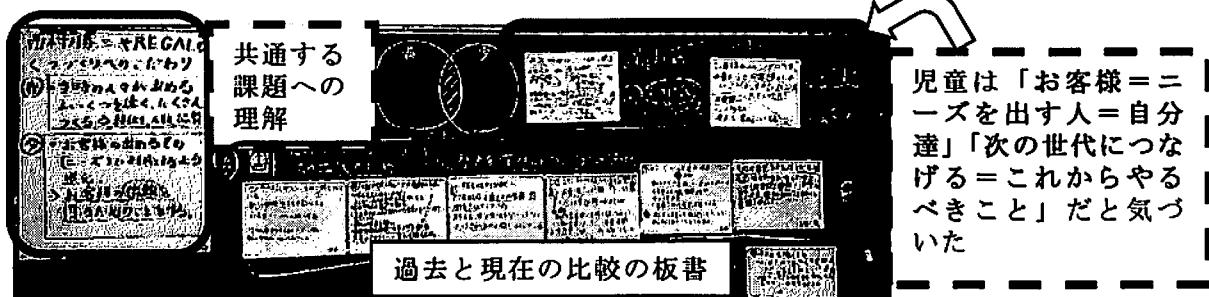


手立て② 過去と現代の工業について調べ、時間を超えて共通する課題への理解を深める

過去の靴造りの学習を通じ児童は「当時の世の中の人々が良い靴を多く、速く造ってほしいこと」「それに対応できるように人材育成や技術を育てたりしたこと」を学んだ。注文やニーズ対応することで発達してきたことを学んだ後、現在の REGAL が取り組んでいることについて学習を行い「お客様の求める製法・材料・修理など」のニーズに応える取り組みについて知ったことで、時代によってニーズは変化しているが、二



ニーズに応える姿は変わらないことに気づき、時間を超えて共通する課題があることを理解することができた。(資料編6)



以上のことからこれらの工業も同じように社会からのニーズに対応することで発達していくことを考察できた。さらに児童はこの時点でこれらの工業を考える際に、どのようなニーズが求められているのかや、ニーズを考えていくのは自分達がやるべきだということ、それを次の世代につなげるといったことまでを考え、教師側が設定した仮説を飛び越え、考察することができた。授業後に「過去と現在の比較」という観点で、児童の意識調査を行い、その変容を捉えることができた。

項目	事前	事後	変容の見られた児童 (1)は A児 (2)は B児
(1)日本の工業が栄えた理由	3人 (8%)	35人 (100%)	事前高い技術がある。 事後高い技術を昔から取り入れる姿勢が現在にもつながっている。様々なニーズに応えることができるから発達した。
(2)昔の工業と今の工業はどんな関係があるか	0人 (0%)	19人 (77%)	事前昔のことはわからない。 事後今も昔もニーズに応えるために新しい技術を考えたり高い技術を保とうと努力したりして、ニーズに応え続けている。

【仮説2】

手立て① 質問やメールでのやり取りを通して、工業に関わる人々とのつながりを作る。

児童はFさんからいただいたメールをもとに、REGALの取り組みやこだわりの多くを知ることができた。児童はこのやりとりを通して、工業に関わる人々を身近に感じ、地に足がついた解決をしようとしていることに気づいた。「これらの工業について考える際にはニーズを考える必要がある」「そのニーズは自分達が考えていかなければならない」という意識をもった。児童の感想や振り返りからもわかる。

F様よりいただいたメール。REGALの取り組みやこだわりがこと細やかに記されている。

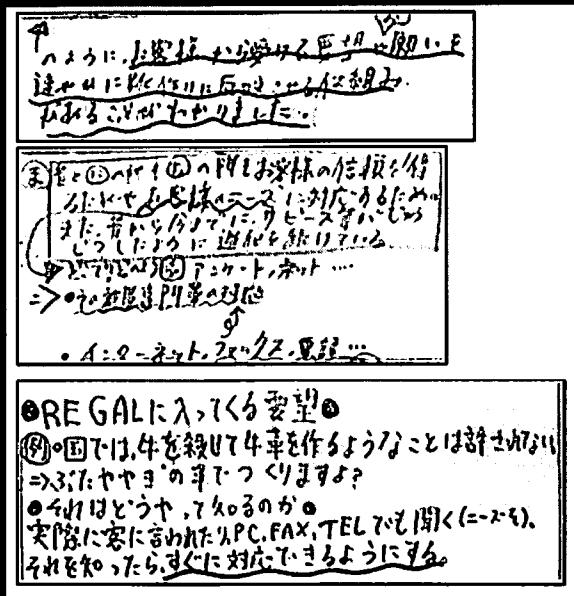
社外秘の事項もありますのでご承知くださいませ。

①「REGALはお客様からの要望・ニーズにどのように対応しているのか」
⇒直接の要望については、その都度専門部署の対応になります。
例えば遠隔地からの希望の場合はより近い当社専門店舗、販売店舗をご紹介、及び店舗の連絡先などをお伝えしています。

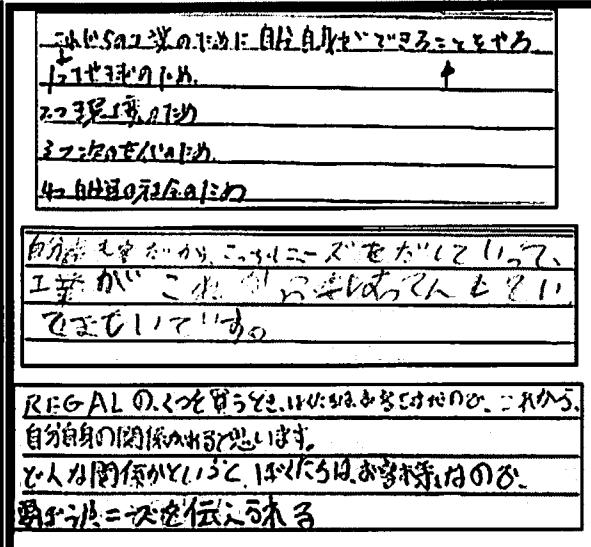
②「どのようなニーズが求められているのか」
⇒社外秘の事項もあるので具体的には記しませんが新しい靴の企画が始まります。
材料(皮革、布、釘、糸他10種類の材料が必要)選定、それらを調達するために海外の本業所や商社、国内企業と打合せ、それらが整った段階で製造工場を決め、ライン管理を検討します。
同時に販売広告等の販促活動を専門部署、広告代理店と打合せ、発売前後に併せて広報します。
これらの内、材料、製造部門では環境に対する取り決めが為されますが、例えば、多くの靴の材料である牛革を使えない方々がいる市場や国では、他の皮革(山羊や豚など)を代わりに使う事もあります。

③「どのようにして彼らの要望やニーズを知るのか」
⇒当社は116年(1902年創立)靴を作っていますが、昔も今も変わらないのは靴を履かれる方の全ての体重を支え、しかも歩くだけない様々な外的・内的圧迫を常時受ける過酷な環境に耐え安全に足を守る靴であるように努力しています。
その為には靴をただ作って売るだけでなく、様々な改善、販売員が顧客より受ける要望やお願い(インターネット、ファックス、電話等込)を直やかに靴作りに反映させる仕組みを長い間培ってきました。
当然今後もより良い靴作りをする為の彼らの努力を抜けなければ成らないと全社員が努力しています。

希望やニーズに応えることへの理解



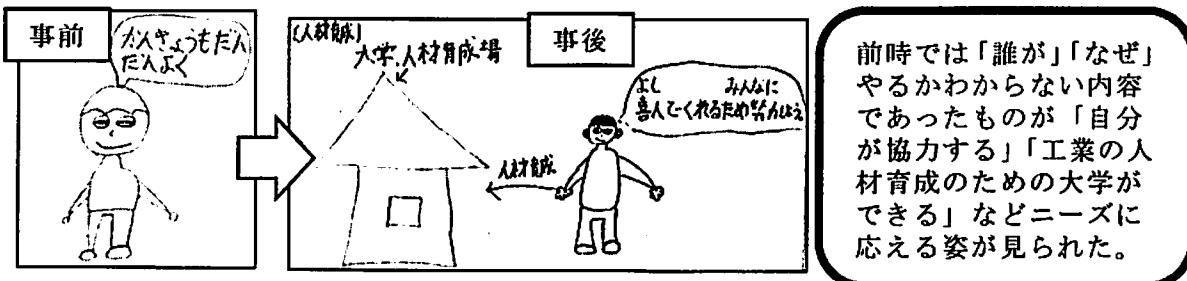
自分達がニーズを考えることへの意識



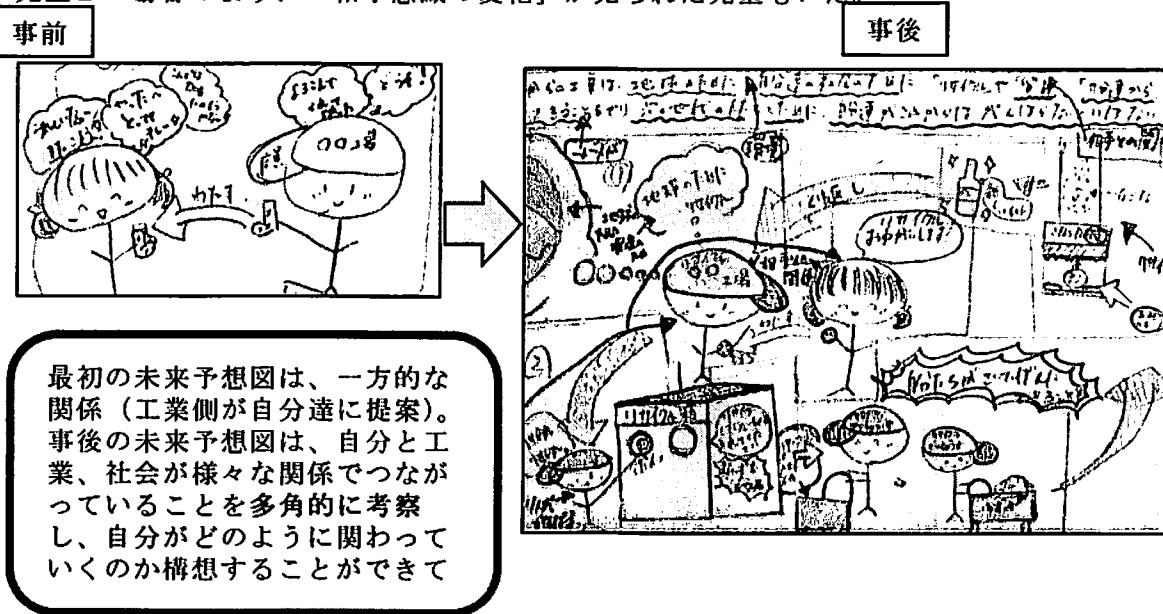
手立て② これからの工業について構想する際に、まとめ方を工夫する

まとめ方を工夫した指導や、KJ法やホワイトボードを活用した話し合い活動を通して、児童は「ニーズに応える必要性」や「相手意識をもつ大切さ」、「誰に向けた構想か」ということを意識して考えることができるようになった。(資料編3)

例えば、児童Aの場合を見ると



児童Bの場合のように「相手意識の変化」が見られた児童もいた。





授業後に「これからの工業」という観点で、児童の意識調査を行い、その変容を考察した。

項目	事前	事後	変容の見られた児童 (1)C児 (2)D児
(1)これからの我が国の工業はどのように変わっていくか	3人 (8%)	35人 (100%)	事前もっとすごいものを発明する。 事後私達の社会のためや、これからも強く相手との関係のことを考え、より信頼されることを目指す。
(2)これからの我が国と自分自身の関係について	19人 (54%)	35人 (100%)	事前身の回りにたくさんの工業製品がある。 事後将来自分達も関わっていくから、今の日本のこだわりなどを受け継いでいきたい。社会科で学習したことを探立てたい

現代と過去の工業について調べ、時間を超えて同じように課題を解決してきたことを知り、これからの工業について自分との関連をもとに構想することができる児童が増えた。

10 成果と課題

〈成果〉

- 地域教材や他教科と関連させる活動、過去と現在の工業の共通点や相違点をもとに考えるで、課題が明確になり、自らを取り巻く社会が抱える課題について考察できるようになった。
- 学習協力者を活用したり、これからの工業の姿を構想する未来予想図を用いてまとめたりすることで、これからの我が国の工業についてより自らと結び付けて構想できるようになり、自らと社会との関わり方について考えることができた。

〈課題〉

- 児童の主体的な取り組みを生かし、「社会との関わりの段階」においてさらに先へ進ませるために単元構成や指導法についての研究が必要である。
- 学んだことを再提案したり、知識のアウトプット化をしたりすることができなかった。

当事者意識をもって課題について考察し、
解決に向けて自ら構想していく力を養う社会科学習の在り方
～第5学年の工業学習における西村勝三の靴造りを通して～

資料編

資料1 子どもの変容 意識調査より

P 1 ~ 3

資料2 REGALの導入や道徳教材「西村勝三」の授業後のふり返りの様子

P 3 ~ 6

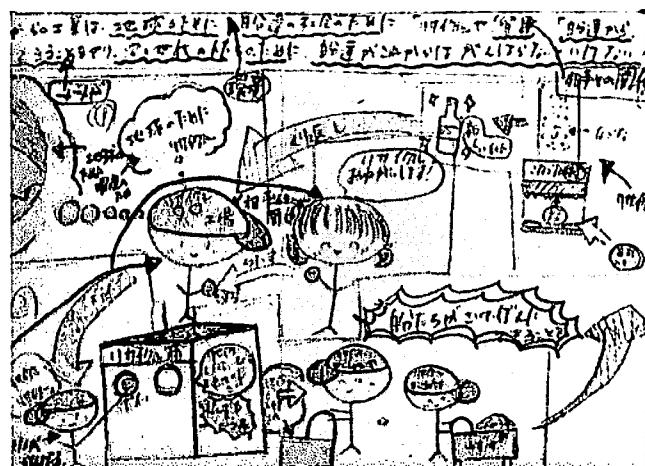
資料3 「これから工業の姿」の絵…導入時に描いたものと、最後のまとめに描いたもの
P 6 ~ P 9

資料4 授業の後に記載した「学習頑張りカード」のわかったことや感想について

P 10 ~ P 12

資料5 「これから工業について」学習前に実施したアンケートから学習後に実施した
アンケートの内容の変容
P 12 ~ P 16

資料6 授業の板書



P 16 ~ P 16



資料1 子どもの変容 意識調査より

1 社会科の学習を楽しいと感じる。

■とてもそう思う □まあまあ思う □あまり思わない ■思わない

授業前

18

19

2

授業後

23

13

0

あまり思わない、思わないという児童がいなくなり、全員が社会科の学習に興味関心をもてるようになった

2 社会科の調べ学習が楽しいと感じる。

あまり思わない、思わないという児童がいなくなり、全員が社会科の学習に興味関心をもてるようになった

■とてもそう思う □まあまあ思う □あまり思わない ■思わない

授業前

25

7

2

授業後

25

10

0

3 社会科の工業の学習（日本の工業地帯や製鉄業など）が楽しいと感じる

■とてもそう思う □まあまあ思う □あまり思わない ■思わない

授業前

19

19

2

1

授業後

28

7

あまり思わない、思わないという児童がいなくなり、全員が社会科の学習に興味関心をもてるようになった

全員が具体的な理由を述べることが出来るようになった

4 日本の工業がここまで栄えたのはどうしてだろうか

- 具体的な理由を述べている ■具体的な理由を述べていない(努力した、信頼されたなど) ■知らない・わからない ■無回答

授業前

2

25

6

2

授業後

35

0

5 日本の工業が栄えた理由（複数回答あり）

- 伝統を引き継ぎ、進化した
- 海外と貿易や技術などで協力した
- 工夫や努力を重ね、優れた製品づくりをめざした
- 世の中のニーズに対応したものを作ってきた
- 昔から今まで高い技術を取り入れてきた
- 大学設立や職人を育てるなど人材の育成に取り組んだ
- 次の世代のことを考えて取り組んだ
- お客様や世の中の人々からの信頼にこたえようとした

全員が授業前と比べ、具体的な理由を述べることが出来るようになった。今の工業の取り組みと課題について考えることができるようになった。

授業前

2

授業後

5

3

10

4

6

2

6 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか（複数回答あり）

- お客様のためだけでなく、自分達の社会や地球ための取り組みをする
- 環境への取り組みに力を入れる
- AIを取り入れてより良いものをつくる
- より新しく高い技術を取り入れていく
- 時代が求める製品を作っていく
- 海外との関係も考えていくようになる
- 次の世代のための取り組みをする
- 具体策なし（がんばる、空飛ぶ車ができるなど）
- わからない・無回答

全員が授業前と比べ、具体的な理由を述べることが出来るようになった。今の工業の課題と比べて考えができるようになった。

授業前

3

21

19

授業後

17

16

2

5

3

7

11

0

7 これからの日本の工業と自分自身の関係について（複数回答あり）

■自分達が使う工業製品が社会に与える影響について考えたり、環境問題に向けてリサイクルに取り組んだり次の世代につながる行動をする

■ニーズを示すことで、工業がこれからも発展できるようにしたい

■工業が世界を動かしていくから、自分もその一員になる

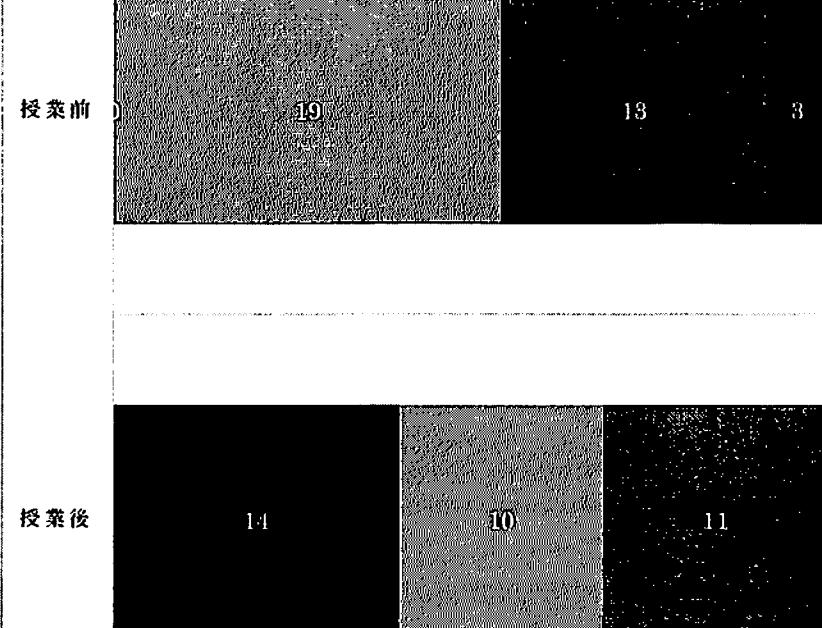
■将来自分達も工業に関わるから、社会科で学んだことをいかせるようにしたい

■将来自分達も工業に関わるから、今のうちに工業のことをより知っておきたい。

■具体案なし（工業製品を使う、暮らしを支えるなど）

■わからない・無回答

■自分には関係ない



特に自分自身がどのように関わっていくのか、どんなことができるようになるだろうかということを考えることができるようになった。

授業前は他人事として工業を捉えていたり、非常に抽象的な意見しか述べられていなかったりという児童が大多数を占めていた。

授業後は上記のように全員が具体的な解決策や課題への取り組みについて考えができるようになった。

資料2 REGALの導入や道徳教材「西村勝三」の授業後のふり返りの様子

好学進取成徳作用、といふ言葉を大切にしたい。西村さんが創業者なら、丈夫な靴づくり、サービスが充実しているのそうですね。なるほど、それがなぜか...
だからかるので、結構で技術が高い。
どうしてREGALは、技術、手作業、古いんで、いいとされているが、(1902)明治時代が2018年までずっと、いいですか？

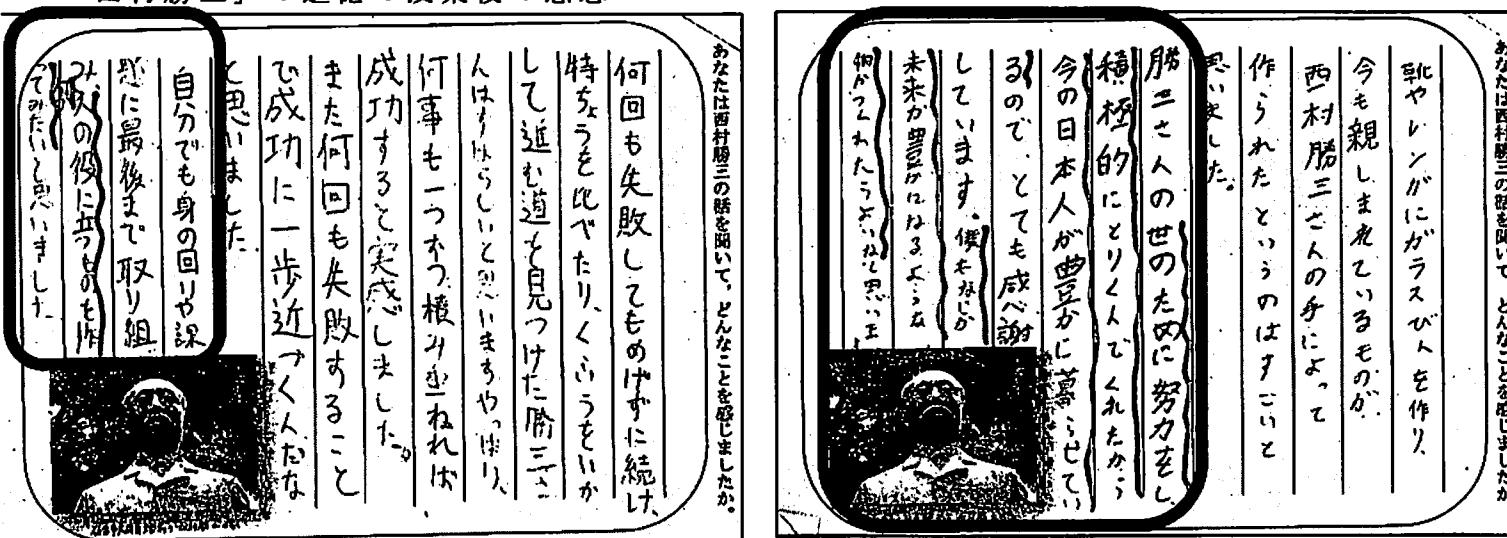
こうのくつをつくって、(1)作り方。
うの町を上げるのにばせ)長持500
くつを作るのか? なんかね...

「西村勝三」の道徳の授業後の感想

西村勝三とは

明治の啓蒙思想家である西村茂樹の弟である。茂樹は道徳教育の推進のために明六社を興し、日本人のものの考え方のあるべき姿を示した。弟の勝三は、製靴業に携わり、産業面から日本の将来を考えた人物である。勝三は、佐久間象山に西洋砲術を学び、佐野藩（佐倉藩支藩）で藩士に砲術師範をするなど、若いころより軍事面で活躍した。しかし勝三は、「藩や日本のためにもっと役に立つ仕事がしたい。」という理由で藩を脱藩し、武士を捨て商人の道に入る。西洋の進んだ文明を知った勝三は、鉄砲をはじめ、洋服から銅、鉄まで何でも商い、明治維新後、政府の大村益次郎の要請を受け、製靴業に取り組むことになる。この製靴業は、佐倉藩士であった大塚岩次郎等に受け継がれ、現在もその名を知られる「大塚製靴」「リーガルコーポレーション」などの会社として発展していった。「明治日本の工業の父」とも呼ばれる人物であり、我が国の工業に大きな影響を与えていた。

「西村勝三」の道徳の授業後の感想



西村勝三のように、自分も世の中の役に立ちたい、なにか協力したい、という意識が生まれた



西村勝三の理念や功績が、現在の世の中にも受け継がれている、役立っているという気づき

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

ぼくは、西村勝三さんはすごいと思いました。理由は西村勝三は失

敗に次ぐ失敗の連続だったた

けれど世のため、人のために

と思ってやったんだな、と思いま

した。あと、この西村勝三さん

はず、と一つをつくり続けて、

高熱に負けない耐火煉瓦の製表

造に取り組み完成させると、

せることころが、

すこしと思いました。

造に取り組み完成させると、

せることころが、

すこしと思いました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

西村勝三さんは最初に仕合だとひた

してしまったけれど、思いましたが、

ほんの県で成功しくつを飾るのだけでも

大変なのに、レンガを作り、東京駅での

レガを使たり、ガラスがとてあって、

もし、勝三さんはこうこうことをしてく

れていなか、でも、と日本はやめた

だと思ります。それに明治、玉藻の

父と言われる人か、佐倉でう

まれたということを

ありました。

あります。

成功よりも失敗の方が多いということ、成功の

おもにいろいろな事に落ち込んでしまうこと、失敗の

おもに、仕合市に落ち込んでしまうこと、失敗の

おもに、仕合市に、全国をゆくめ

いな人がいたんだな、と思いません。また

仕合市について、西村勝三さんに、

知らない事がたくさんあるみたいと

思いました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

ぼくは話を聞いて、失敗して、失敗しても

あきらめないと、ことがとても大切なんだ

分かりました。そして西村勝三さんが死んでから

死んでから、ガラスじゅう作りをして、なりければ日本

は死りませんか、など思います。

死んでぼくは今回、失敗してもあきらめないと

いう事を活用し色々な場に役立てたいとい

ます。

死んでぼくは今回、失敗してもあきらめないと

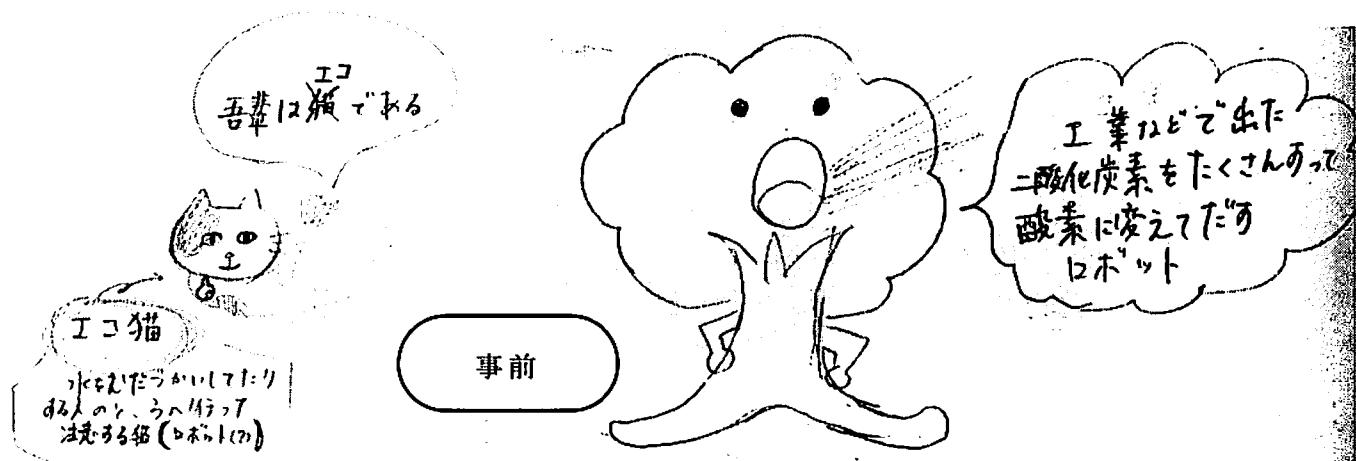
いう事を活用し色々な場に役立てたいとい

あなたは西村勝三の功績を知ったり、歴史認識を深めたりすることで工業への興味関心を高めた

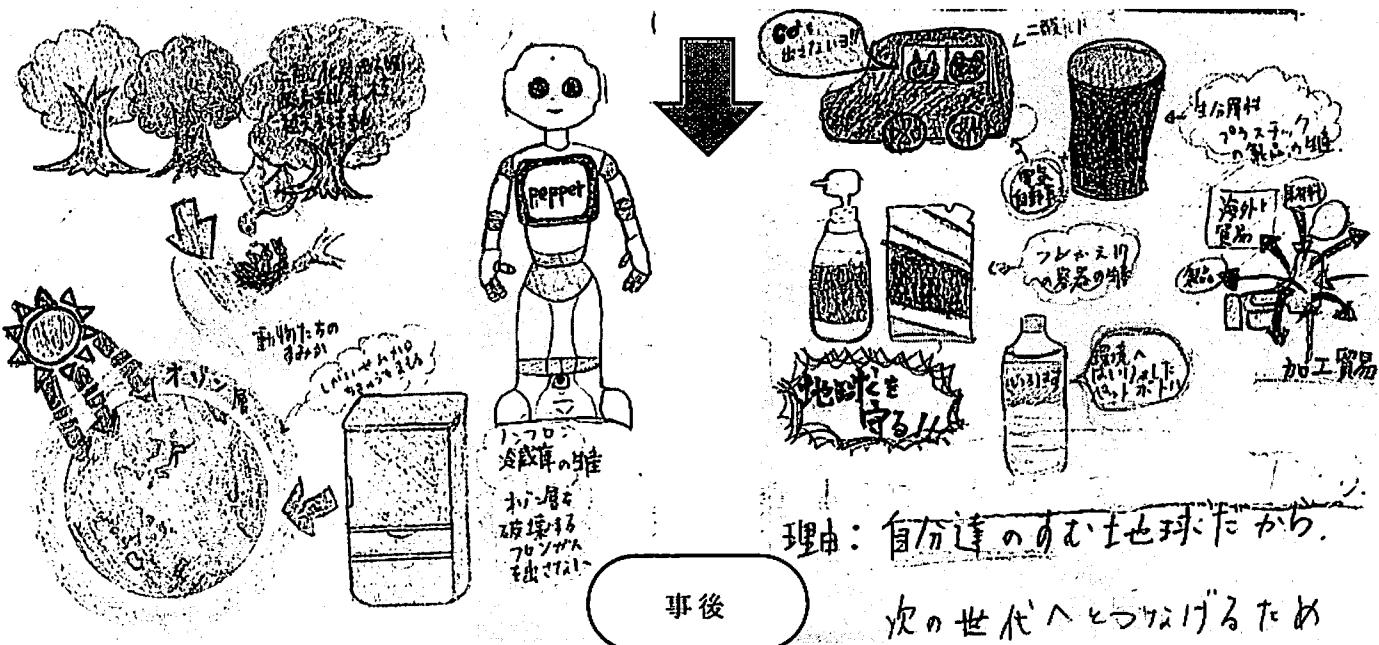
り、今の工業につながっていることを理解したりすることができた。また課題を自分ごととして捉えることの大切さや難しさを感じることができた。

資料3 「これから工業の姿」未来予想図…導入時と、最後のまとめに描いたもの

⇒導入時に想像して描いた「これから工業の姿」についてと、最後のまとめのときに既習事項をもとに描いた「これから工業の姿」についての未来予想図を比べた。

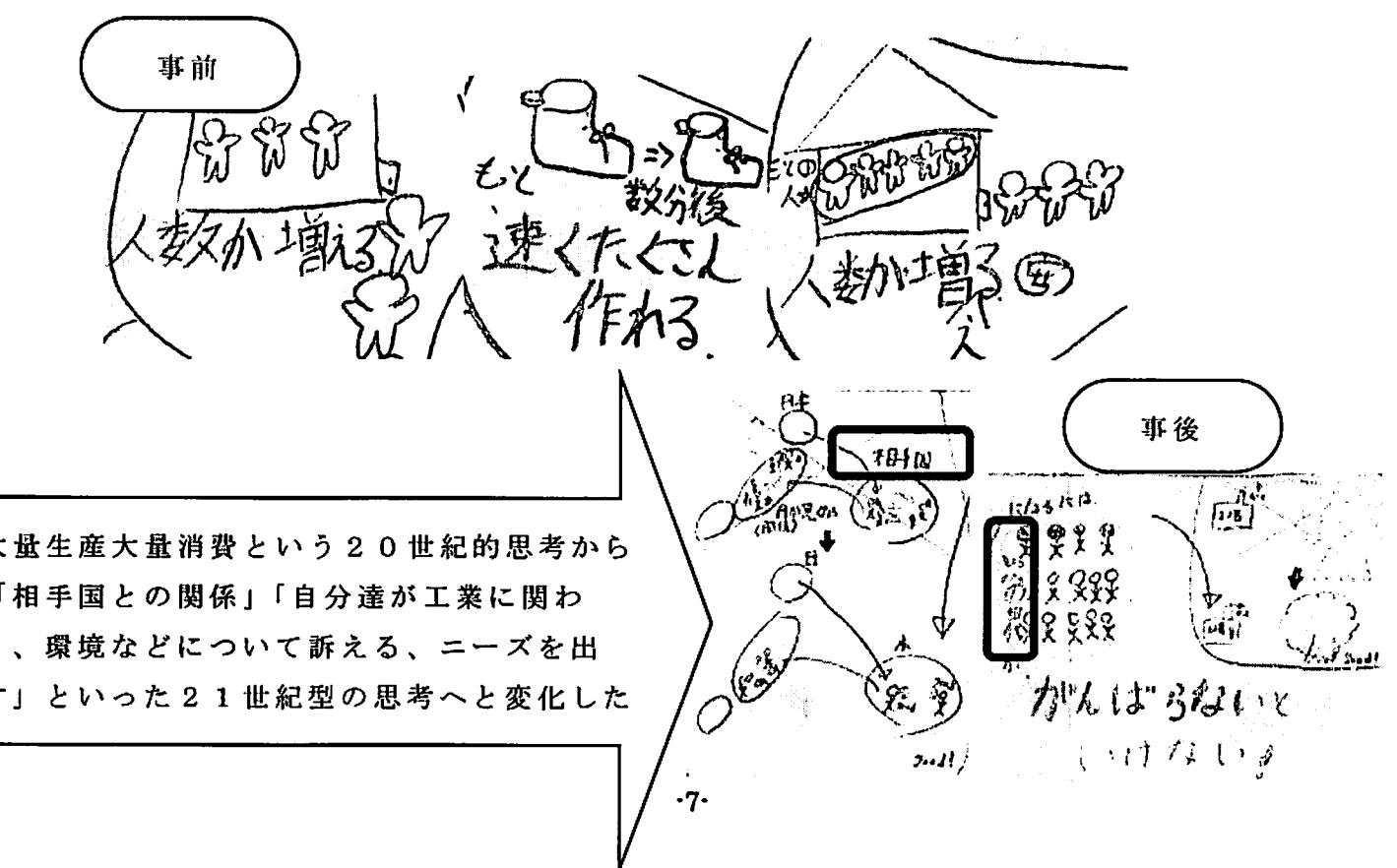
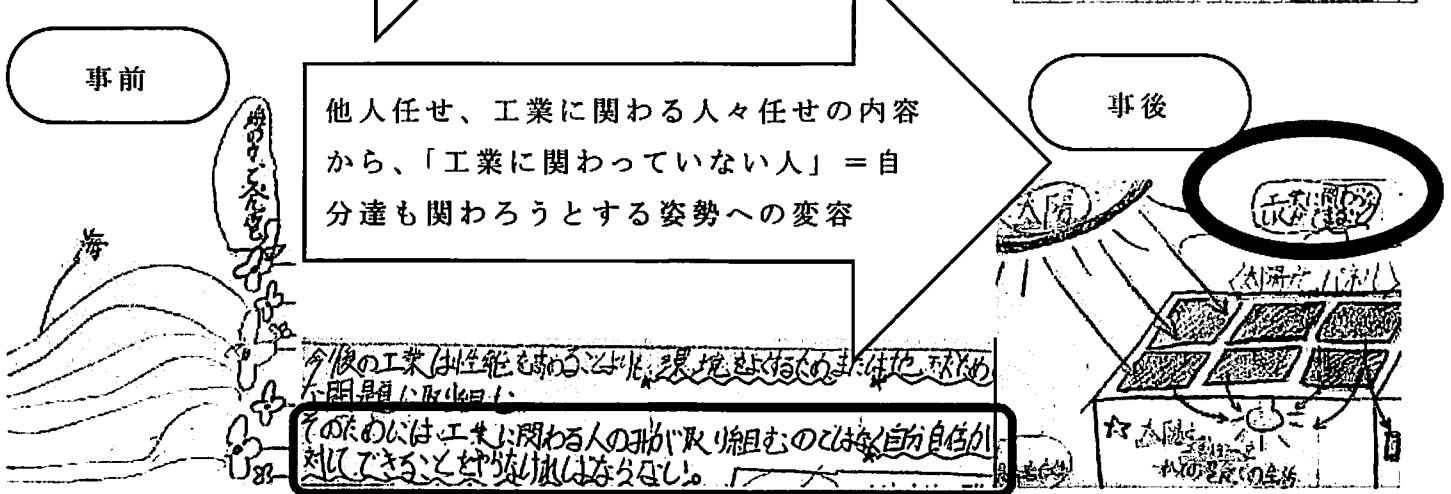
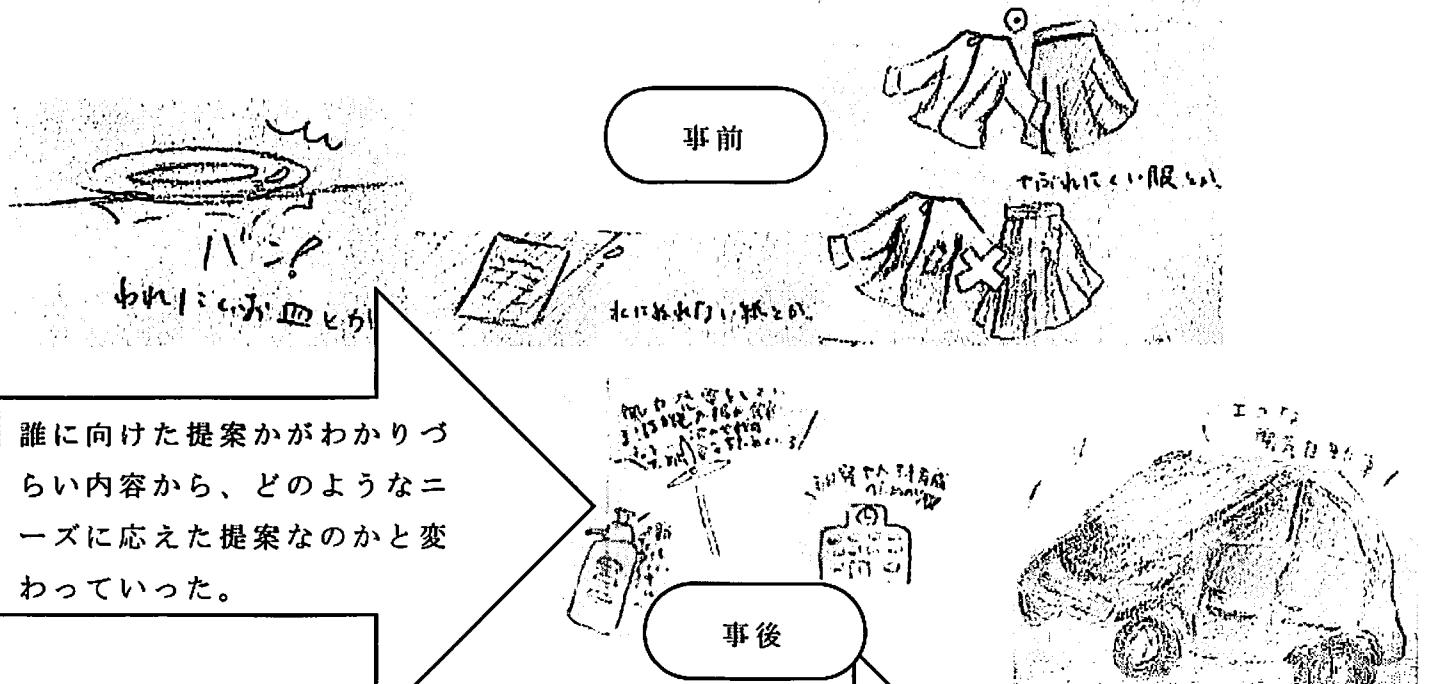


このような「これから工業の姿」を描いていた児童F



「これから工業は、環境への取り組みに力を入れていく。
それは、自分達のすむ地球のためであり、工業にまかせるのではなく、
自分が取り組んでいくこと。(リサイクルなど 3R)
他にも人手不足の解消のため、人工知能が増したり、海外との関係
強つけられ加工貿易や海外進出が増えていく。(少しを次の世代へつなげる)

これからの工業の姿について現在の工業の課題を把握し、ニーズをもとに考えることができるようになった。「誰に向けた構想か」を考え、工業の課題を自らと関連したものととらえ、自分にできることや取り組めることについても考えることができるようになった。
⇒自ら問い合わせだし、解決を行う「深い学び」につながっている。

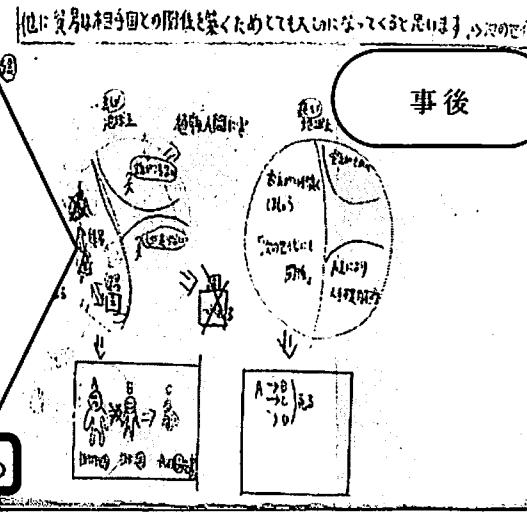


事前

事後

抽象的な工業製品の発展の姿（風で動く車）から、相手国との関係や環境問題、自分達の社会のための発展という地に足がついた未来像への変容

更に技術を高めていくと思います。→自分達の社会のため



事前

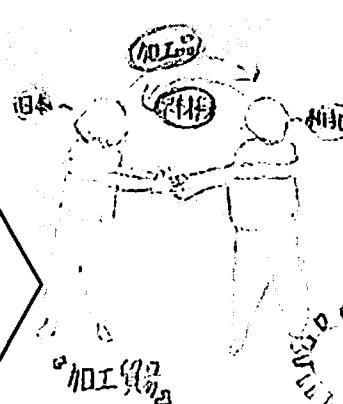
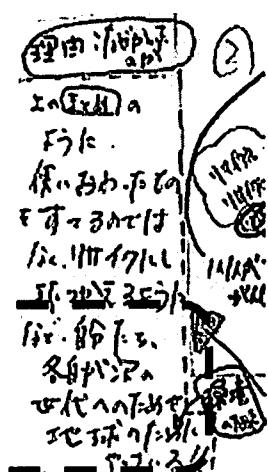
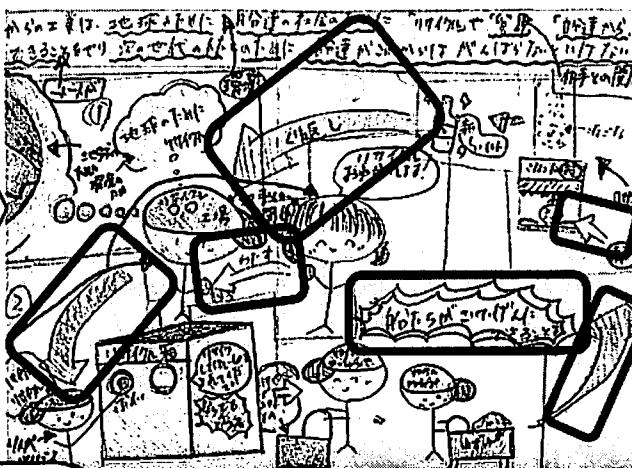
矢印の向きの変化。工業側からの取り組みだけでなく、自分達側からの取り組みが見られるようになった。
点線部に記載。

事後

事前

抽象的提案
からの変容

事後



①、体から出る工業は地球のために環境を大切にし自分達が人間できることをするそして次の世代につなぐ
相手国と良好な関係を築く。

車の絵（おそらく自動車産業が何かしら開発するだろうという意識）から、自分たち一人一人が取り組むべきこと、相手国との関係を重視することへの気づき。

事前

人の手の動き

A I が工業で使われるようになる、という最新の工業に関する知識は持っているものの、自分との関わりは描かれていなかった。自分たち一人一人が取り組むべきこと、相手国との関係を重視することへの気づきが生まれた。A I の活用が、相手国との貿易・産業のつながりをより盛んにする、という考えも生まれた。

海外進出は増え、働き手も減るつまり日本の工業が減ると思ひたが

事後

働き手は減、なにしても A I が使うと見え、もう一人海外進出は増すと思ふ

日本も外國との関係を保つため産業を発達させ、貿易を充実させ、ハイレベルな成績の人が人材として育てられていく。
また貿易もすばやく、良質な商品を多くして、どうかの利益を生み出していく

当初は日本の工業への危機感があった。

しかし環境・加工貿易などわかるがいいと、環境はオゾン層のはかりによる温暖化、生命体の生存危機、次世代の人々の影響する生命体たるが、あっては生命体のために、加工貿易も海外と連携を始めたり、環境に配慮した取組をして、工業、金融業でも、これにして不利益にならぬように、相手との関係を守りつつ、貢献がいることを人に教える。おじにまかせてはいけない

お客様の
意見を開く、

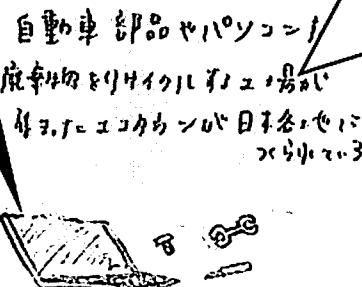
事前

- ・自分達も支えていくという意識への変化
- ・工業側も、多種多様な取り組みをしている、ということへの気づき
- ・相手国との関係、良好な間柄づくりの重要性

自分たち・社会へ手を貸す

持続可能な社会を
めざす

当初は工業側が「お客様」に意見を開く、工業側の取り組みの視点。当然、お客様≠自分達という意識



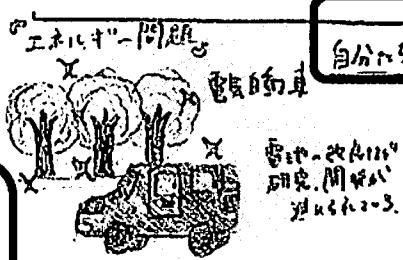
自分達も支えていく、という意識への変化

事後

自動車部品やパソコン、
車両修理サイクルシステム
など、エコカラント日本各地にて
実現してます。

交通機関にて、世界中とも、
お互いに世界へつながる
車両輸出へ。世界へつながる
貿易を続けることが大切です。

私は石井 穴と進めて
課題の解決に
努めています。



電力供給
資源枯渇
環境問題
資源問題
エネルギー問題
資源問題
資源枯渇
環境問題
エネルギー問題
資源問題

資料4 授業の後に記載した「学習頑張りカード」のわかったことや感想について

(REGALの取り組み)

(西村勝三との関わり)

お客様の信頼を得るために、上へのようないい工夫をしていくことが力になりました。お客様のために、いろはにこく（サービスなど）を進化させている事がわかりました。

REGALは「ニーズ」という言葉をもつていて、それが「ニーズ」である。

また、尼崎の業者と連携を提供すること。

REGALで西村勝三さんから関係している。

(REGALの前身である櫻組や日本製靴株式会社の取り組み)

・博覧会→1111年化が出てきました。
櫻組の靴も、そのころから何かしらの変化がある（つまりは年化）があった。

ロシア政府によって「櫻組」がいい革化という情報がいくつもんて當時のことから考えると、どうしていい革化だ？ どうう？ と思った。また、ロシア政府の人から櫻組の靴をもらった人達の評判はどうだったのだろう。

・広告を出すや工夫

外國から注文を受けるほど人気だった。

(今と昔の工業の取り組みを比べて)

今のREGALと昔のREGALはどちらともお客様の信頼を続けるためにいろいろな取り組みをしている。

今のREGALは昔のREGALの取り組んでいたことあるけど、昔と比べて新しく取り組んでいる。(5)ニーズに対するサービス重視、他の商品

今のREGALの工夫と昔のREGALの工夫、どちらをわかるて比べるとかばん。

「今と昔
変わったが努力している！

・お客様の信頼を得るために
・ニーズに対応
・進化している。

お客様に安全と安心
高い信頼を得る
企業

今と昔を比べることで、取り組んだことが違っても、それは社会から求められたものに対応しようとしている姿だということに気づくことができた。

昔、人々がモノのよいくらいを高くたくさんつくる。
⇒技術、人材、品質。

今、ニーズに対応するよう進化、⇒お客様からの信頼を得るためにこと

今のREGALと昔のREGALの「ニーズ」
で違うのは(5)である。

ニーズは、修理、品質、素材、人材、技術などの製造
技術、海外販売などである。

今のREGALの「ニーズ」と

「お客様の信頼」

進化

ニーズ（修理など）

安全

安心

(5)1. ブランドのPR活動など

今のREGALの「ニーズ」

「お客様のため」

今昔のREGALの「ニーズ」

③人間じて④だった。 ⑤は②

(社会からのニーズに対応しようとする姿)

かつを作りながら、環境に対する取り

決めが為されている。上のように改善をしたり、どのように変わられるかといふことを常に考えていろからよりかつ作りになってしまことづかうとしたかった。

今回の授業では、お客様の立場やニーズについて述べるために、進化をしてお客様に応えられるようにしていった。これからの自分にとって大切なことなどを知りたい。

REGALについて

(例題)

①進化している

(例題) お客様の求めたもの(ニーズ)
に対する応

(例題) お客様

署へ!

(全体) お客様の信頼を得るために、
↓
様

修理? オーダーメイド? 素材? おしゃれ?
・茶以外。おしゃれ
製法? 現在 海外向けも!

REGALは常に、お客様に信頼してもらおう。よって、お客様のニーズをより新しくなりを改善していく。そのためには努力していろとかいなかつた。
常に新しい技術を手に入れよう。
いつも新しい技術を手に入れようと思ひます。

②お客様から要める要望は、
連絡時に新しくなりに反映させる工夫
があると便利であります。

REGALに入ってくる要望

例題) 国では牛を殺して牛革を作るようになると許されない
=> どうやや生の革でつくりますよ?

それはどうや、知らないのか?
実際に客に言われたり、PC、FAX、TELでも聞く(=です)。
それを知ったら、すぐに対応できるようにする。

社会のニーズに応えようとする姿勢が今も昔も工業の発達を支えてきたということへの気づき。そして、それに応える工夫や努力があることへの理解

昔と比べ今は①より信頼と最新技術

③のところはお客様の信頼を得るため REGALはかつを進化させています。

今のこと(REGAL)

お出で REGALはお客様からの要望ニーズに対してどのように対応している
及び店舗の連絡先などを伝へている

多くの既存の材料で信頼を得るためにはやはり国産は、他の定番
年が月々を代りに使われます。

自然な技術でそれを得意とするか、それが何よりも良いとされれば
自然な技術でそれを得意とするか、それが何よりも良いとされれば

それがアリは。

今のREGALは昔よりより信頼を受け
るためにお客様のかいせんを開いて
すぐ入りがけているのかすごいと思いま
す。(例題) 他のかやくにしてください

④革を作りだけでも、大変なのに
専門人が造ったり、見掛けたり、7CMまで
なかむたりして、製作者が、革を作ら
れる人 etc. などすべてにおいて、
努力していると感じました。

お客様からのニーズは、直接の要望については、その都度専
門店舗、販売店舗で遠隔地からお問い合わせがあり
ご案内などをして対応。
どのようなニーズかは、木製(10種類以上)店選定だ!
環境に対する取り組みには対応してほしい。

REGALは、116年も革を作っています
インターネット、スマートフォン、電話等でニーズを受け
ていろ

REGALは、お客様の求めるものにこた
えられるよう進化していく、これがす
べて、お客様の信頼を得るため。

どうなってる?

専門部署の対応

ま) 昔と①の所と②の所もお客様の信頼を得
る所: トヤとお客様へニーズに対するため
また、昔から今までニーズがヒース革がじめ
じつしてようには進化を続けています。

どうなってるアンケート、ネット…

=> ④の都度専門部の対応

・インターネット、スマートフォン、電話…

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業はいかに進むことを思ふ。	10. これから日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業は技術者や日常で使うものをやってたり大切な工場をつくつける。	11. これから日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、実習したことからもとに書いてみよう。	地域開拓で技術を教わる。また自分たちで意見交換をする。	8 日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。	日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、実習したことからもとに書いてみよう。	環境でもその工場で使う。また自分たちで意見交換をする。	9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。
10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	どんぐり質がだくなっている技術者たちが高くなると、それがいい。人が多いと人が多いと困るといふ。	7 日本の工業がここまで進めたのはどうしてだろうか、なぜそこまでしていけば良質な人材が育てられるから。	7 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	エアコンの修理や作業がかかるなどと思う。エアコンの修理ができない人間でいてうまく他の人の技術を教えてくれるといふ。また、自分たちが自分でできることが大きくなると、また日本は工業についてよく聞かれることが多くなると感じます。これが、自分がやさしいと感覚だと感じます。	8 REGALという会社を知っていましたが、まだ今はまだよくないといふ。REGALの魅力。(大きく) とてもいい感じです。	8 日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、実習したことからもとに書いてみよう。	これからも外国の技術を取入れた日本の技術の人が多い(7、あの質や、高い技術で、お客さんのすぐさまニーズへ答える力)ようだなとと思う。	9 既に日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。	9 既に日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、実習したことからもとに書いてみよう。	変換する分野が多くて、どうぞしまじめなうから大手企業のエンジニアが木材等といつもの分野でやっているが、それはやはり最後でまだ少ないのは抱負ではないかと思はせました。	10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。
7 日本の工業がここまで進めたのはどうしてだろうか、実習したことからもとに書いてみよう。	自分の技術を進めながら、(自分で使う)。他人への貢献や最新技術に取り組んでいく。 日本の現代の人のことをよくお話しでした。	11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業は、品質を重視して技術力を上げるために、常に努力している。
8 日本が三が関わった分の工業と、JPBやRB GALなど今の工業とはどんな関係があるのか実習したことからもとに書いてみよう。	技術者同士が、お互いにいい技術を教えてもらおうとする。しかし、外の人の立場のうえから見て、それは自分たちの立場が悪いと感じる。		
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、実習したことからもとに書いてみよう。	日本の工場は製造工場から少しずつ違う。内装の機器はどんどん組んでいく。	9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	REGALしながら行くところが、他の人のため、技術ニアーナー。REGALだけではなく、他の会社三社が一緒に意見をまとめて進む感じ。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、実習したことからもとに書いてみよう。	みんなの手で一緒に国を守るために、自分が自分の意見を出していく。それがいい。	10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、実習したことからもとに書いてみよう。	SLALのことを買うときの仕事で、このPLM、自分が自分の関係の仕事になります。

工業はこれからも栄える、という他人事としての意識、抽象的な視点から、人の役に立ちたい、工業の人びとに任せただけではなく自分達で出来ることを考え実践していく必要があることへの気づき

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

「ぼくは、西村勝三さんはすごいと思いました。理由は西村勝三は失敗に次ぐ失敗の連続だ。たけれど世のため、人のために」

「と思ってやだんなー」と思い

ました。あと、この、西村勝三さん

はずと、つをつくり続けて

高熱に負けない耐火煉瓦の製

造に取り組み完成させると、うとこうが

すごいと思ひました。

思ひました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

西村勝三さんは最初に信心をとひ

して、まどうなるのかと思ひましたが

ほんの県で成功しくつむけるのだけでも

大変なのに、レンガを作り、東京駅での

レバを使ったり、ガラスびんを変えてくれで

もし、「勝三さん、こう、こうことをしてく

れていなか、たらも、と日本は外へ出

たと思ひます。それに明治、五年の

父と言われる人が、体からでう

かりすごくうれしかったです。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

成功より失敗の方が多いということ、成功のたまにいろいろな失敗を経てないと

ました。また、佐倉市に、全国で唯一の

いな人がいたんだなと思います。また

佐倉市について、西村勝三さんについて

知らない事があると、心地よいと思ひました。

佐倉市について、西村勝三さんについて

知らない事があると、心地よいと思ひました。

佐倉市について、西村勝三さんについて

知らない事があると、心地よいと思ひました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

松田、西村勝三さんの話を聞ひました。

トドシモジに思ひました。でも西村勝三

さんは、「や、私は成功したりも失敗して下さべ

下さい」と思ひました。成功

するには、いは、失敗して失敗して成功

トつりがることが大事だと思ひました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

私は作るときに失敗を何回もし

たけれど、お金がなくて作り続

けて、や、と成功した西村さんの話を

聞いて、あきらめないこと、失敗からま

まば事が大切だとわかりました

また、失敗する事が少くても地の

ガラスびんやレンガをどんどん

新らしく作っていくのかすご

いなと思ひました。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

あきらめないと、ことかとても大切な事だと

分かりました。そして西村勝三さんは、失敗

を作り、失敗をして、なりければ日本

はありませぬか、など思ひます。

私はほくは、今回、失敗してもあきらめないと

いう事を活用し色々な所に役立てたいと思ひます。

あなたは西村勝三の話を聞いて、どんなことを感じましたか。

私は作るときに失敗を何回もしました。

たけれど、お金がなくて作り続

けて、や、と成功した西村さんの話を

聞いて、あきらめないこと、失敗からま

まば事が大切だとわかりました

また、失敗する事が少くても地の

ガラスびんやレンガをどんどん

新らしく作っていくのかすご

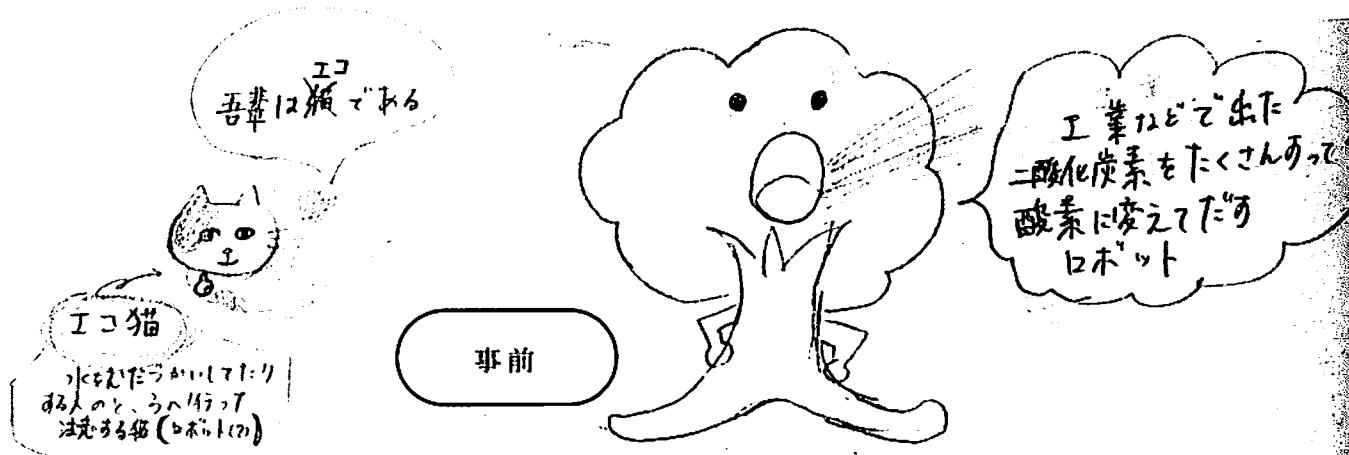
いなと思ひました。

「世のため、人のため」という理念が工業を発展させ、暮らしを支えてきたことへの気づき

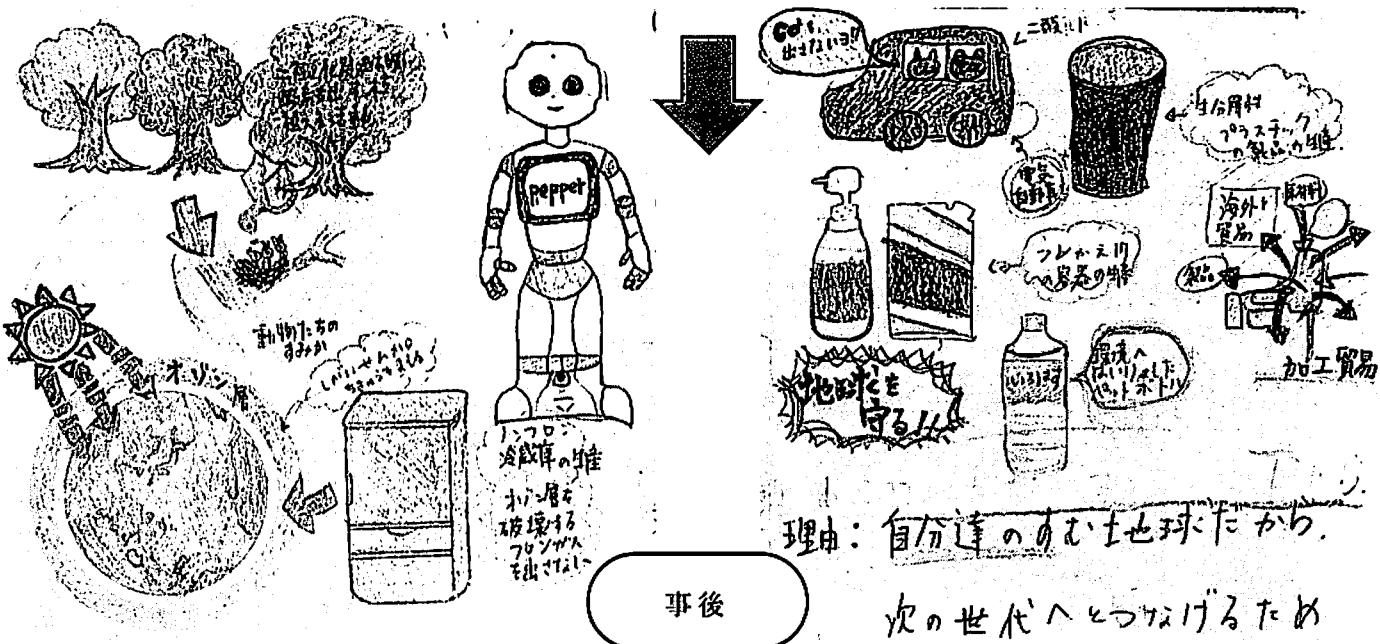
西村勝三の功績を知ったり、歴史認識を深めたりすることで工業への興味関心を高めたり、今の工業につながっていることを理解したりすることができた。また課題を自分ごととして捉えることの大切さや難しさを感じることができた。

資料3 「これからの中の姿」未来予想図…導入時と、最後のまとめに描いたもの

⇒導入時に想像して描いた「これからの中の姿」についてと、最後のまとめのときに既習事項をもとに描いた「これからの中の姿」についての未来予想図を比べた。



このような「これからの中の姿」を描いていた児童F

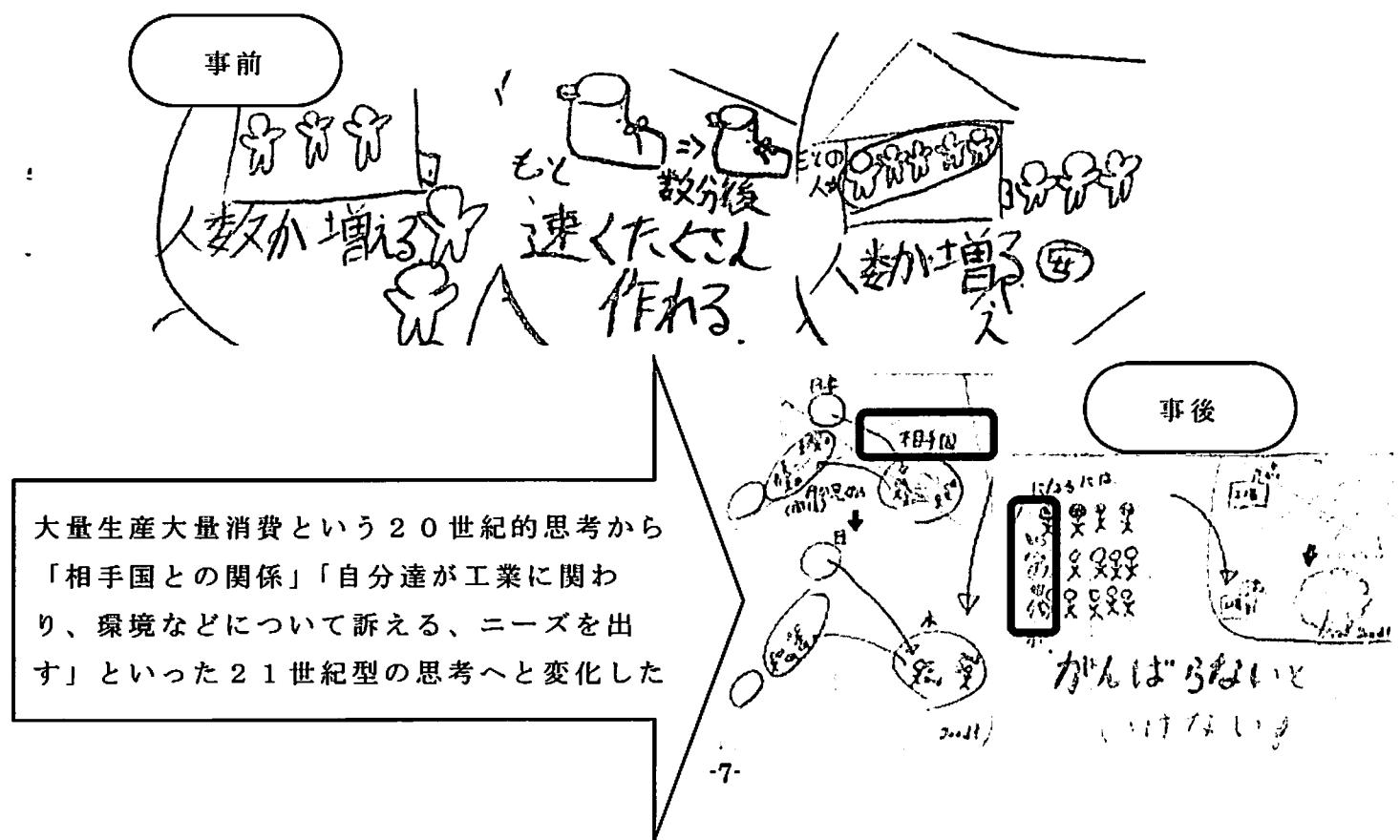
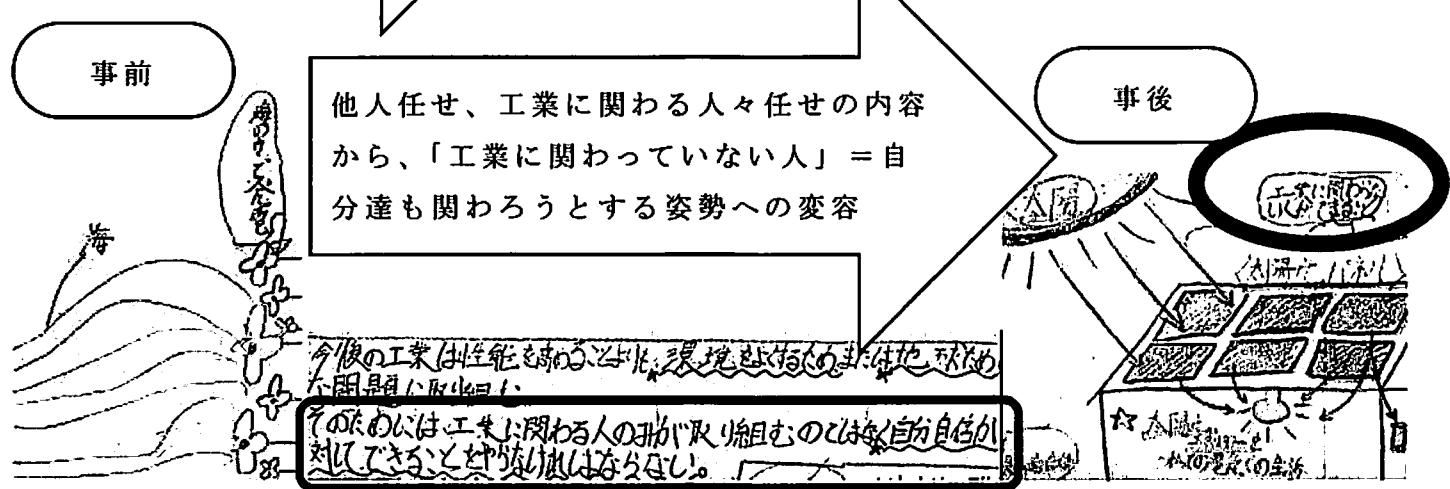
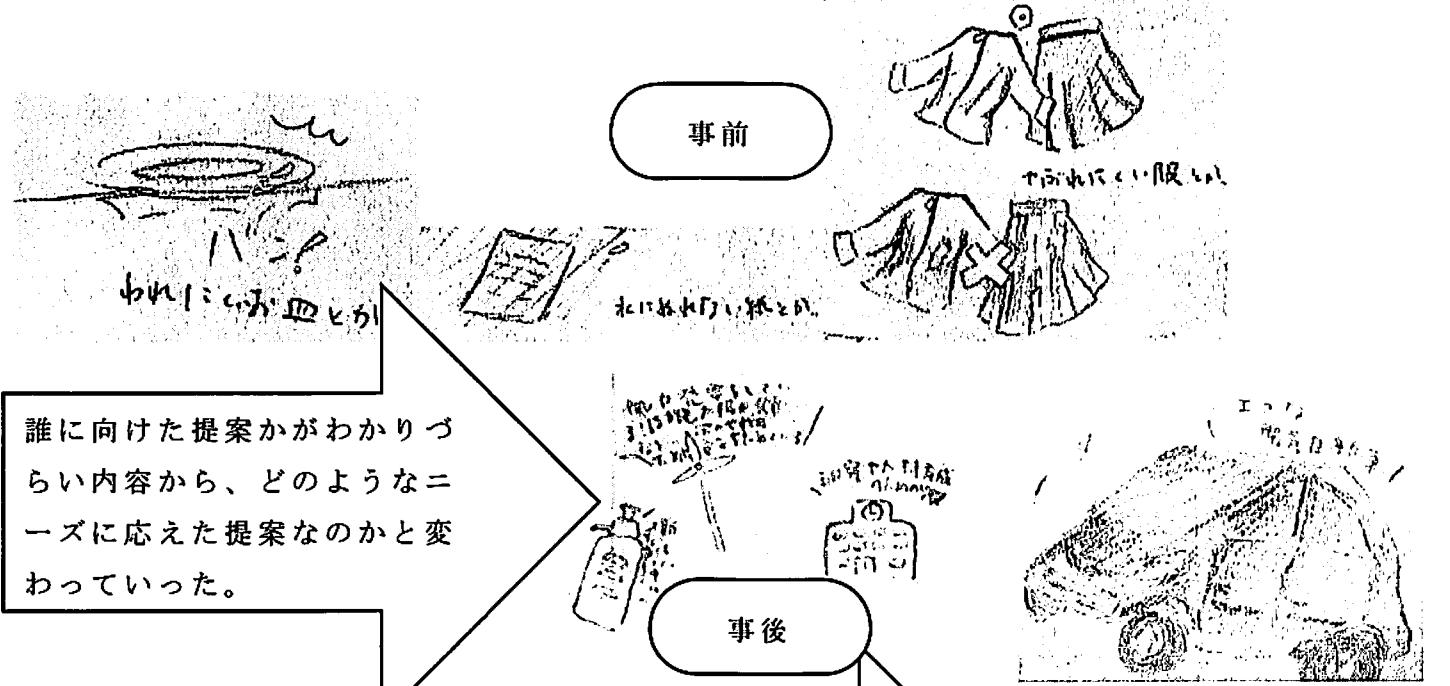


理由: 自分達のすぐ地球にから

次の世代へつなげるため

「これからの中の工业は、环境への取り組みに力を入れていく。それは、自分達のすぐ地球のためであり、工业にまかせるのではなく自分が取り組んでいくこと。(リサイクルなど 3R) 他にも人手不足の解消のため、人工知能が増したり、海外との関係保つため加工貿易や海外進出が増えていく。(これを次の世代へつなげる)

これからの工业の姿について現在の工业の課題を把握し、ニーズをもとに考えることができるようにになった。「誰に向けた構想か」を考え、工业の課題を自らと関連したものととらえ、自分にできることや取り組めることについても考えることができるようになった。
⇒自ら問い合わせだし、解決を行う「深い学び」につながっている。

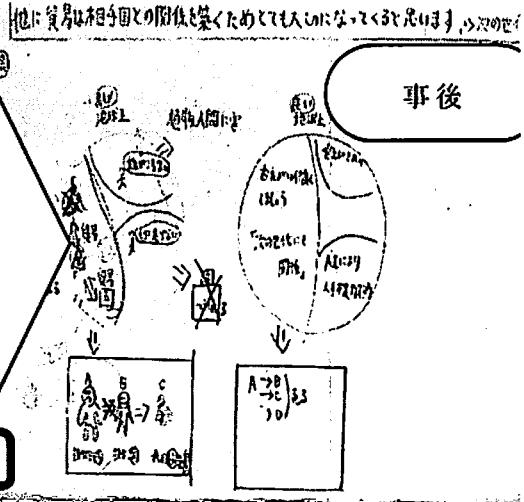


事前

事後

抽象的な工業製品の発展の姿（風で動く車）から、相手国との関係や環境問題、自分達の社会のための発展という地に足がついた未来像への変容

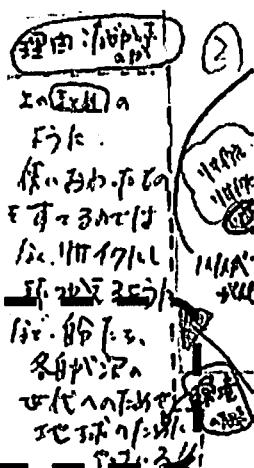
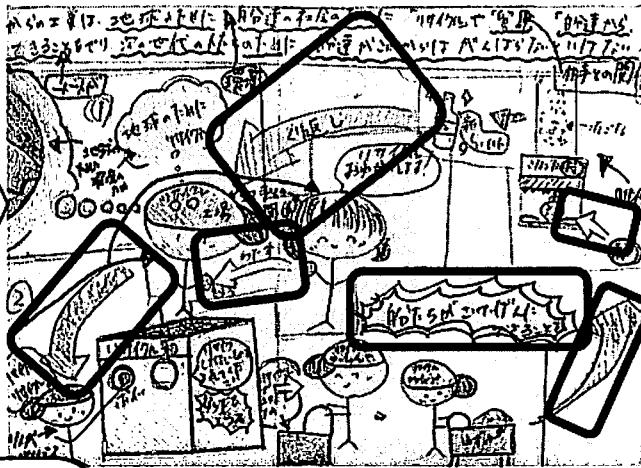
更に技術を高めていくと思います。→自分達の社会のため



事前

矢印の向きの変化。工業側からの取り組みだけでなく、自分達側からの取り組みが見られるようになった。
点線部に記載。

これから工業が取り組むと考えたリサイクル・省エネについても、以前は工業側から一方的に提供されるものという意識であった。
←工業側がリサイクル・省エネに取り組み、それを消費者側が受け取る、という構図

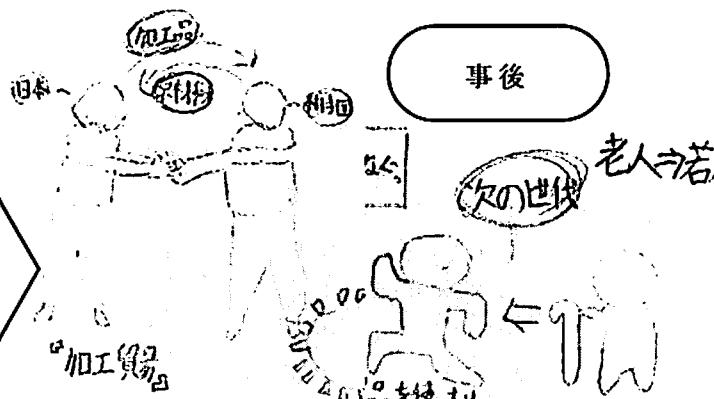


事後

事前

事後

抽象的提案
からの変容



①、体からの工業は地球のために環境と大切にし自分達が人間できることをするそして次の世代につなぐ
相手国と良好な関係を築く。

車の絵（おそらく自動車産業が何かしら開発するだろうという意識）から、自分たち一人一人が取り組むべきこと、相手国との関係を重視することへの気づき。

(社会からのニーズに対応しようとする姿)

くつを作成するに、環境に対する取り決めが為されている。上のようにより改善をしたり、どのような工夫がなされたかといふことを常に考えてからよりくつ作りになつてゐることがわかつたかった。

今回の授業では、お客様のニーズに対するため、進化をしてお客様に応えられるようにしていった。これからの自分にとがむることのアドバイスについても述べたい。

REGALについて

(一社説)

進化している

(会社説) お客様の求められたもの(ニーズ)
に対する心 お客様 第一!

(全体) お客様の信頼を得るために

修理・オーダーメード・素材・おしゃれ
・革以外・おしゃれ
・製法工場・現存 海外向けも!

REGALは常に、お客様に信頼してもらおうように、お客様のニーズをより改善していく革作りに努力していこうとかくつかつた。
常に新しい技術を手に入れて、
「革の加工技術」と思いました。

のように、お客様から要望される要望を聞いて、
連絡で革作りに反映させていく工程が
あることを中止しました。

REGALに入ってくる要望

例) 国では牛を殺して牛革を作らうることは許されない
=> 37. ややヨの革でつくりますよ?

それはどうや、知るのか?
実際に客に問い合わせたりPC、FAX、TELでも聞く(ニーズ)。
それを知ったらすぐに対応できるようにする。

社会のニーズに応えようとする姿勢が
今も昔も工業の発達を支えてきたとい
うことへの気づき。そして、それに応え
る工夫や努力があることへの理解

昔と比べ今は、①は、作業と最新技術

②のところはお客様の信頼を得るため REGALは、くつ進化させている。

今のくつ(REGAL)

おは、REGALはお客様からの要望ニーズにどのように対応すれば
及び店舗の連絡先などを伝えていた
多くの革の材料で、革を扱うのが困難な場合は、他の皮革
革が代わりに使われる。

当然、革よりも革の代用品である二つ(合成皮革)

革の代用品として、革の代用品と見なすと全く見え

ないくらいに似ています。

そのため、革の代用品として、革の代用品と見なすと全く見え

ないくらいに似ています。

今のREGALは、昔よりより信頼を受け
るためにお客様のかいせんを開いて
すぐ近くからいるのかすごいと思いま
す。(例、他のかやべーにしてください)

革を進化させて、大変なことに
専門の人が適しだり、見難くなり、7CM以上
なかびたりして、革を扱う者から革を進化させて、
売る人 etc. などすべてにかいこむが、
努力していると感じました。

お客様からのニーズは、直接の販売については、その都度専
門店舗、販売店舗で遠隔地から、FAXによる注文等が
多いなどをして対応。

このように対応取り決めに斌してほしい。

REGALは、116年も進化して、FAX等でニーズを受け取
るインターネット、FAX等でニーズを受け取
ける

REGALは、お客様の求めるものにこだ
わらせるよう進化していく、これらはす
べて、お客様の信頼を得るために。

どのようにしてる?

専門部署の対応

ま 前と①の所も⑦の所もお客様の信頼を得
る所で、お客様のニーズに対するための

また、昔から今までニーズ等が「じつ
じつして」ようになっており、進化を続けています。

→ どうぞとへう(?)アンケート、ネット ...

>> ⑧の部門専門部署の対応

・インターネット、FAX等 ...

(新たに出た疑問)

「この人は西村勝三の下で、たくつ(木組)を2万足を
何に使ったの?」

REGALはお客様の要望に応じ、靴をつくづく
いうようだが、お客様の要望からつくづく靴
はどんなものだらう。また、キラという要望は
どれくらい入ってくるのだらう。

コシアの人はどうやつで西村勝三の下で知りの
コシアのくつと西村勝三のくつの方か
高級卓上?

どのよにそんなに2万足も作れなかつた
くつか1906年に28万足も作れたの?

社会の変化、工業の発達に対する関心意欲態度の向上。

社会科が「好きではない」、工業について「興味がない、自分には関わりがない」と最初のアンケートで答えた児童がこのような疑問をもち、最後のアンケートでは社会科の学習が好きだ、工業の学習が楽しい、というように変容した。

資料5 「これから工業について」学習前に実施したアンケートから

学習後に実施したアンケートの内容の変容

⑨ これからの日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、実習したことなどと一緒に書いてみよう。	⑩ これからの日本の工業 と自分の関係について、実習したことなどと一緒に書いてみよう。	⑪ これからの日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、自分が学 んだことをもとに書いてみよう。	⑫ これからの日本の工業 と自分の関係について、 自分が学んだことをもとに書いてみよう。
↓		↓	
⑬ これからの日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、自分が学 んだことをもとに書いてみよう。	⑭ これからの日本の工業 と自分の関係について、 自分が学んだことをもとに書いてみよう。	⑮ これからの日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、自分が学 んだことをもとに書いてみよう。	⑯ これからの日本の工業 と自分の関係について、 自分が学んだことをもとに書いてみよう。
↓		↓	
⑰ これから日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、自分が学 んだことをもとに書いてみよう。	⑱ これから日本の工業 と自分の関係について、 自分が学んだことをもとに書いてみよう。	⑲ これから日本の工業 はどのように変わって いくだろうか、自分が学 んだことをもとに書いてみよう。	⑳ これから日本の工業 と自分の関係について、 自分が学んだことをもとに書いてみよう。

他人事としての「これから工業の姿」から、自らと関わりがあることへの気づき

他人事としての「これから工業の姿」から、自らが現在の社会が抱える課題に向かい合うことの大切さに気づくことができた。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今の工業は非常にパワフルで、技術が進んでいます。 しかし30年後には少しがんばりをしないといけないと思う。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	企業から個人まで多くの工業が出ていて、これからは、工業に関わっていくことになります。

他人事としての「これからの中の工業の姿」から、自らが現在の社会が抱える課題について考え、関わる姿勢に変わることことができた。

8 西村昌三が関わった昔の工業と、JFEやREGALなど今の工業とはどんな関係があるのか理解したことからと書いてみよう。	昔の工業はどちらも、人間中心の時代でした。 今は資源をたくさん持つことで、自然資源を多く使っている。
10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。空気したことからと書いてみよう。	これからは、資源を多く持つことで、自然資源を多く使っている。 エネルギー不足で、資源を多く使うことで、資源が足りなくなる。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	少し勉強するところ。 ①資源が生きていく中で、消耗品が増えていくので、工業は発達していくと思います。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	よく知らない人が多いですが、生活必需品や衣服が豊富で、品質が良くなっています。 二葉製品の手作り感がなくなってしまってつくらしくはない。今では今は技術が高いから。

8 西村昌三が関わった昔の工業と、JFEやREGALなど今の工業とはどんな関係があるのか理解したことからと書いてみよう。	おさらいカリキュラム これまでの流れ 次の世代へつなげよう
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。空気したことからと書いてみよう。	まだ資源不足の時代 AIの人材不足解消
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、空気したことからと書いてみよう。	まだ知らないものがまだあるかも 今から、3Rについて学びたい

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	まだ知らない日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	まだ知らない日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	まだ知らない日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	まだ知らない人の力や知識などを学ぶ

8 これまでの工业について書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	これまでの工业と、新しい技術を取り入れて、よりよくなる工业をつくりたい。 また、海外で開拓して、よりよくなる工业をつくりたい。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、空気したことからと書いてみよう。	今までの工业の技術やこだわりをアピールしていきたい。 （主に技術や知識をもつて、技術を教えてみたい）

8 これまでの工业について書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	これまでの工业の人たちだけではなく、自分自身がなるべくの世代の人たちのことを考えて行動する
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、空気したことからと書いてみよう。	浪がんせうを守り次の世代の人たちまでやり継ぐのをしたい

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今までの工业と、資源を多く持つことで、資源を多く使っている。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今までの工业と、資源を多く持つことで、資源を多く使っている。

10 これまでの工业について書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今までの工业の人たちが多くいる。 より増えろ。
8 西村昌三が関わった昔の工業と、JFEやREGALなどの工業とはどんな関係があるのか理解したことからと書いてみよう。	西川昌三と、JFEやREGALなどの工業がつながっている。

8 これまでの工业について書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	これまでの日本の工業は、次の世代の工業がより技術をこなすことにより技術との技術をつなげていく。 （主に技術をもつて、技術を教えてみたい）
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、空気したことからと書いてみよう。	今までの工業と、自分たちの社会のために、じっくりのための社会のため。 （主に社会のために、自分たちの社会のために、じっくりのための社会のため）

8 西村昌三が関わった昔の工業と、JFEやREGALなどの工業とはどんな関係があるのか理解したことからと書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか。自分が考えたことをもとに書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、空気したことからと書いてみよう。	これまでの工业について書いてみよう。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業はCNICで書いていいと使う。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業は身近な物や日常生活ではうつむきを立てても大切だと思った。



10 これからの日本の工業はどのように変わっていくんだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	これから日本の工業はどのように変わっていくんだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	この工业ももう工場にない様子がおもしろい。
8 西村海三郎といった昔の工業と、JPEBやRBGなど今の工業とはどんな関係があるのかを記したことをもとに書いてみよう。	JPEBやRBGなど今の工業とはどんな関係があるのかを記したことをもとに書いてみよう。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	他の工場がなくなってしまったのが辛いなと思います。それで、自分達が頑張って生き残るためには、何をすればいいか。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今はまだ、その工業が少ないといふ人、多くいることはいるけれど、それを守るために、何ができるかと考えてみたい。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	よくよく聞かれていくと思うけど、それがいいよ。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	工場がなくなったから、今まである工場があったからといって、それが日本が守らなければいけないと思います。ですから日本のおもてなし精神が大切で、それがこれから自分がやることを考えたいと思います。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	今よりも外との連絡を取りながら、他の工業の人から話を聞いたりして、商品質や高品質化で、みんなの今までのニーズに答えてくれるようになると思う。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	資源を大切にしたいと思いました。

7 日本の工業がここまで大きくなったのはどうしてだろうか、自分自身にことわらうと書いてみよう	日本の工業がここまで大きくなったのは、(1)日本が豊かな資源。(2)日本人の技術や技術者。(3)日本文化の人のところまで行くところ。(4)日本政府のリーステー(?)とつながっている。
8 西村海三郎といった昔の工業と、JPEBやRBGなど今の工業とはどんな関係があるのかを記したことをもとに書いてみよう。	昔の工業が現めたら、(JPEBなど)。ついでに、今あるやせらぎの工业が、今までの工业の流れから離れておりません。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	この工业は性能をあらわす工業だ。

10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	この工业は身近な工业で、身近な工业がなくなるのが寂しい。
---	------------------------------

7 日本の工業がここまで大きくなったのはどうしてだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業がここまで大きくなったのは、(1)資源が豊富であります。(2)技術者や技術者がたくさんいます。(3)文化が豊富であります。
8 REGALといった昔の工业と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	REGALは、(1)日本人の技術者。(2)日本人の技術。(3)日本人の文化。
9 これからの日本の工業はどのように変わっていくんだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	この工业は、(1)資源。(2)技術。(3)文化。
10 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	この工业は、(1)資源。(2)技術。(3)文化。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくんだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本で生まれた工业が世界で成功するためには、日本人の技術者。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	日本の工業は、(1)資源。(2)技術。(3)文化。

10 これからの日本の工業はどのように変わっていくんだろうか、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	REGALは、(1)日本人の技術者。(2)日本人の技術。(3)日本人の文化。
11 これからの日本の工業と自分自身の関係について、自分が考えたことをもとに書いてみよう。	REGALの、(1)日本人の技術者。(2)日本人の技術。(3)日本人の文化。

工業はこれからも栄える、という他人事としての意識、抽象的な視点から、人の役に立ちたい、工業の人びとに任せることだけではなく自分達で出来ることを考えて実践していく必要があることへの気づき

工業に関わる人びとが努力している、という視点から自分達も工業にこれから関わるかもしれないから工業のことについてより知っていく必要があるという意識の変容が見られた。

工業に関わる人々がこれからも努力していく、努力を続けていくという考え方から自分達も工業や企業にニーズを出したり、求められるべきニーズを考えたりしようとする意識の変容が見られた。

これから工業は今関わっている人だけでなく、次の世代への取り組みも行っている。次の世代ということは、自分達への取り組みを行っている。

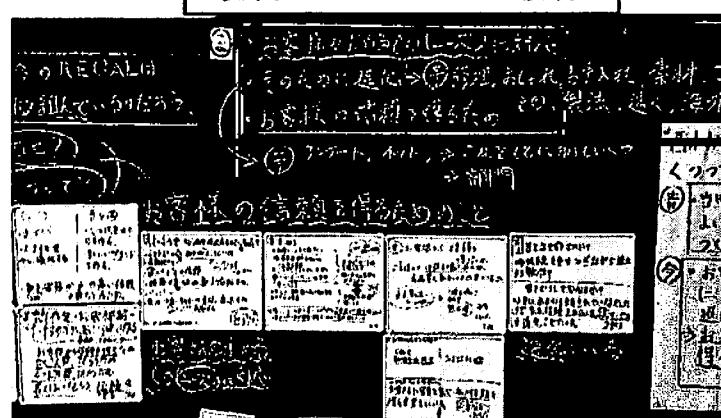
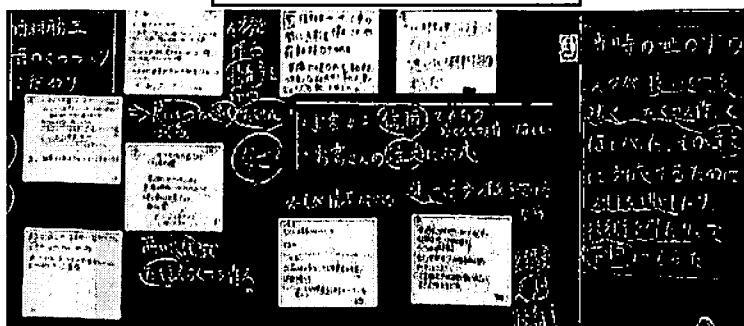
だからこそ、自分達も一緒に取り組めることは取り組んでいかなければならないという意識の向上が見られた。

資料 6 授業の板書

時代によってニーズは変化しているが、ニーズに応える姿は変わらないことに気づき、時間を超えて共通する課題があることを理解することができた。以上のことからこれからの工業も同じように社会からのニーズに対応することで発達していくことを考察できた。さらに児童はこの時点でこれからの工業を考える際に、どのようなニーズが求められているのかや、ニーズを考えていくのは自分達がやるべきだということ、それを次の世代につなげることまでを考え、教師側が設定した仮説を飛び越え、考察することができた。

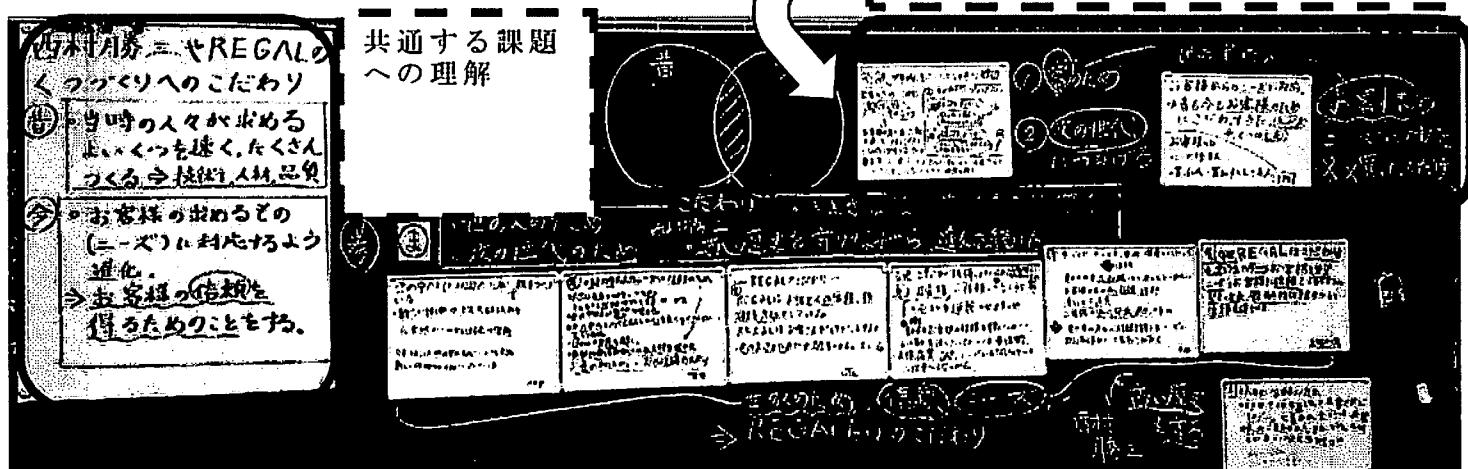
現代のREGALの板書

過去の靴造りの板書



過去と現在の比較の板書

共通する課題 への理解



児童は「お客様＝ニーズを出す人＝自分達」「次の世代につなげる＝これからやるべきこと」とだと気づいた